

平成 28 年 5 月 24 日

平成 27 年度  
事業報告書

社会福祉法人ファミリーユ高知

# 平成 27 年度 社会福祉法人ファミリーユ高知 事業報告書

## 評議員会、理事会の開催状況

### 第 1 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 27 年 5 月 25 日 (月) 18:00~19:30  
場所 社会医療法人近森会 近森病院管理棟 3 階 3 会議室  
議題 監事監査報告
- 1 平成 26 年度事業報告 (案) の件
  - 2 平成 26 年度決算報告 (案) の件
  - 3 就労支援事業積立について (案)
  - 4 平成 27 年度補正予算書 (案) の件

### 第 2 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 27 年 12 月 22 日 (火) 18:00~18:30  
場所 社会医療法人近森会 近森病院管理棟 3 階 3 会議室  
議案
- 1 障害者福祉サービスセンターウェブクリーニング室増設工事の件
  - 2 障害者福祉サービスセンターウェブ設備等整備積立金の取り崩しの件
  - 3 障害者福祉サービスセンターウェブクリーニング室増設工事に伴う建設委員会設置の件
  - 4 平成 27 年度二次補正予算 (案) の件
  - 5 就業規則変更について
  - 6 障害者総合支援法対応システムの入替の件
- 報告事項  
アルバーテ北本町駐車場の件

### 第 3 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 28 年 3 月 24 日 (木) 18:00~18:30  
場所 社会医療法人近森会 近森病院管理棟 3 階 2 会議室  
議案
- 1 平成 28 年度事業計画 (案) の件
  - 2 平成 28 年度予算 (案) の件
  - 3 平成 27 年度三次補正予算 (案) の件
  - 4 運営規程改正の件 (キュール)
- 報告事項  
社会福祉法一部改正の件
- 5 役員選任の件

# 平成27年度 障害者福祉サービスセンターウェブ事業報告

施設長 西岡由江

障害者福祉サービスセンターウェブは、2006年に近森正幸理事長が就任されて10年が経過しました。事業内容は変わりなく①就労継続支援B型事業所②相談支援事業所（特定相談）③グループホームポルト（共同生活援助）の3事業を展開してまいりました。就労継続支援B型事業は、CHIビル1階、2階、4階、5階を利用し定員40名で運営しています。3階はグループホームポルトで定員12名の共同生活援助を行っています。また併設している特定相談支援事業は、相談支援員を2名に今年から増員し相談事業にあたりました。スタッフは、施設長1名、相談支援専門員2名、サービス管理責任者1名、生活支援員4名、職業指導員2名、目標工賃達成指導員1名、世話人4名、宿直要員9名で運営しています。小さな組織ではありますが、ノーマライゼーションの理念のもと【できるだけノーマルに近い生活、就労の場を提供すること】を意識し、自己のライフスタイルを主体的に選択し、自立できるよう支援にあたりました。以下3事業の実績を報告します。

## 1、障害者福祉サービスセンターウェブ（就労継続支援B型事業所）

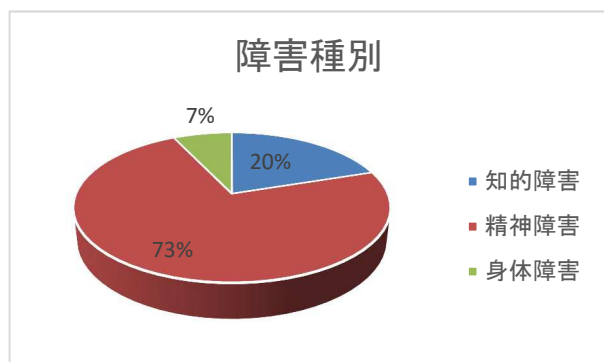
■登録利用者数は昨年と変わりなく68～73名と若干の増減があるものの平均69.4名で、一日平均利用者数は32.5名でした。「(表①) 参照」登録利用者の障害種別では精神障害者が51名(73%)、知的障害者が14名(20%)、身体障害者5名(7%)でした。「(グラフ①) 参照」障害種別も昨年とほぼ変わりなく精神障害者の多い事業所という特徴がみられました。性別では、男性35名(50%)女性35名(50%)で男女差はありません。「(グラフ②) 参照」

月別利用状況  
表①

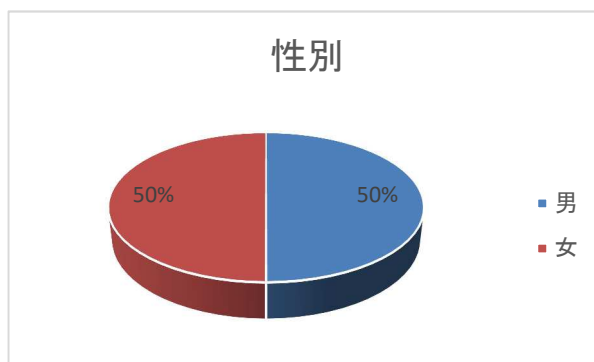
平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成27年度 平均	平成26年度 平均
登録者	73	71	71	70	69	68	68	68	68	68	69	70	69.4	66.8
延人数	871	762	862	891	793	827	866	804	914	747	842	910	840.8	837.3
一日平均	33.5	29.3	33.2	33.0	30.5	31.8	32.1	30.9	33.9	33.9	33.7	33.7	32.5	32.4

(人)

グラフ①

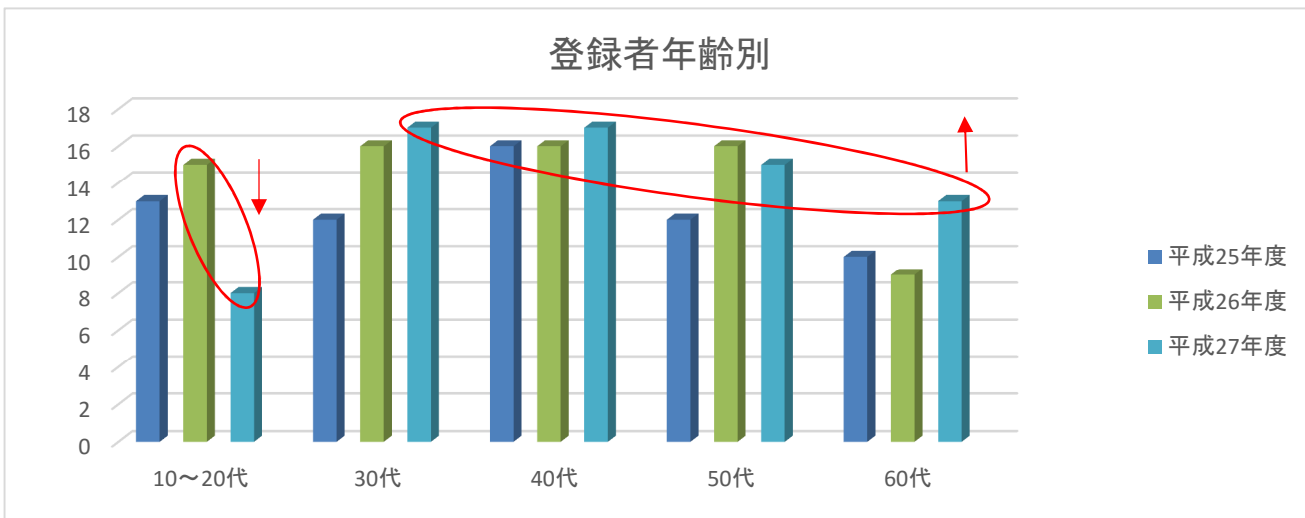


グラフ②



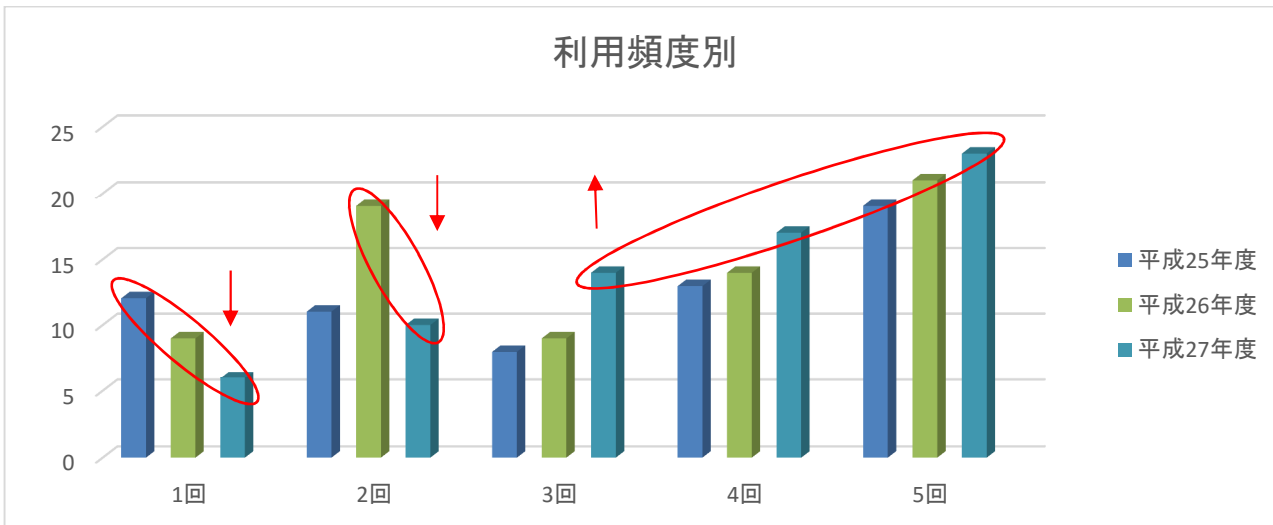
■年齢別では、昨年に比べ10～20代が8名と減少し、30、40代17名、50代15名、60代13名と増加しています。10～20代の減少は、当事業所が終の就労場所ではなく就労意欲や体力面、コミュニケーション能力の向上を意識した支援を行ったことで、若い利用者が次の就労先へステップアップした結果と考えます。「(グラフ③) 参照」

グラフ③



■利用頻度別にみると一週間のうち1～2回と利用頻度が少ない利用者が極端に減り、3～5回が増加しています。「(グラフ④) 参照」これは、利用初期の導入時に比較的負担の少ない利用回数（最低週2回以上の利用を勧めている）から始め、定期的な評価を実施し、スモールステップにて利用時間、利用日を増やしていったことが変化の要因と考えます。利用頻度の増加は目に見える結果として工賃アップにつながり、さらにはもっと仕事がしたいというモチベーション・自信回復に変化しており、ウェブでのB型事業所から一般就労もしくはA型事業所へのステップアップが期待できる利用者が増えてきていると考えます。

グラフ④



- 退所者は11名で、転機内容は1名が職業安定所（非開示雇用）、5名が他事業所へ移行し、残り5名が定年退職、長期体調不良、死亡、市外への帰郷という内訳でした。他事業所への移行は就労継続する中で自分のやりたい仕事を見つけ出し、当事業所にはない就労内容（お菓子づくり・喫茶業務・美術館ホールの受付など）を希望されたことによる移行でした。年齢層も20から30歳代の精神障害者がほとんどで、就労意欲は高いのですが、社会生活や職業生活の経験の乏しさ、精神症状や治療薬の副作用に起因する集中力や認知機能低下による作業能力低下が課題として残っている特徴がありました。しかし、本人が「〇〇で働きたい」という希望をもたれていることを大事にし、私達がダメと判断しないで、本人を取り巻く支援者（精神科デイケアスタッフ・相談支援スタッフなど）と連携し、本人の興味やストレングスに応じて継続的・同伴的なサポートをすることで、就労への意欲や能力を維持し、課題を乗り越えて移行に至ったと考察します。
- 利用希望見学・体験者は一年間で41名でした。見学者の85%が精神障害者であり、年齢層も20から30歳代と若い傾向がありました。体験を利用し正式利用開始となったのは6名で、全て精神障害者でした。紹介元も近森病院総合心療センターをはじめ医療機関、高知市障害者相談センター、高知市就労促進員など様々な支援者からの紹介がありました。利用につながらなかった35名からは、駐車場がない、細かい仕事で厳しそう、給料が手渡しでない、交通の便は良いが興味をひかない、他の事業所も見学したい、持っている資格をいかして介護の仕事がしたいなどが理由として聞かれました。登録利用者を来年は平均75名まで増やす目標をかかげています。全ての希望をかなえる事業展開はできませんが、ウェブだからこそできる支援の幅を広げながら利用者を獲得していきたいと考えています。
- 作業種目は、クリーニング作業、開発商品作業、委託作業、販売作業、公益事業の5つに分かれています。「参考資料1参照」大きな変化がみられたのが、クリーニング作業と販売作業、公益事業です。クリーニング作業では、近森病院職員のユニフォームや入院患者の私物洗濯の依頼を受けています。近森会の稼動が激化する中で、手術件数・カテーテル検査件数の増加、職員増加に伴い作業量が増加しました。うれしい悲鳴ではありますが、利用者の増員や作業場の拡大への対応、クリーニング価格の見直しが課題として上がりました。特に価格は、開所当初から見直しが行われておらず、部署ごとの包括価格であり作業量と価格の乖離が広がってきたため価格交渉を実施しました。結果、洗濯物の枚数単価に変更でき作業収入増加につながりました。増収により、来年度（4月）には1階の喫茶・販売作業を行っていたスペースをクリーニング作業室に拡大し、大型洗濯機・大型乾燥機を設置し増加する洗濯物へ対応できる改装を計画しています。喫茶・販売作業はオルソリハビリテーション病院1階にあった喫茶河の後を引き継ぎ「喫茶ウェブ」として運営させていただきました。入院患者や家族の皆様から「ここがあったから入院も頑張れた」「ここは、ほっとできる」などの声をいただき、利用者のやりがいにつながる就労経験となりました。病院移転後も新オルソリハビリテーション病院5階にて喫茶運営を実施する予定です。公益事業では、毎年入札にて獲得していた高知市委託の道路清掃が落札できず作業項目が減ることになりましたが、近森会より廿代橋周辺及び新築移転したリハビリテーション病院周囲の道路清掃の委託を受けることができました。作業内容はあくまで利用者の意思決定を大切に尊重しており、難しい内容であれば補助具の作成や作業環境面への配慮を行っています。利用者に対して働きやすい環境作り、支援サポートを行うことを念頭に置きながらも、その反面製品に対してのこだわりや品質に関しては一般企業と同じレベルのものが必要であると考えなければならないところもありこのバランス感覚が職員には求められています。

■作業収入は、月平均クリーニング業で 168 万円（昨年より+21 万円）軽作業 45 万円、施設外(委託)作業 12 万円、喫茶・販売作業 11 万円でした。クリーニングでは価格の見直し結果と、軽作業では、品質にこだわり丁寧かつ納期を厳守しコツコツとした日々の努力が受注元との信頼関係を生み、途切れない作業を受けることができ収入アップにつながったと考えます。

■利用者工賃は、時給 100 円～560 円と幅があります。室内で行う軽作業より施設外就労及びクリーニング業などに従事できる利用者の時給が高い状況にあります。「(表②) (グラフ⑤) 参照」月平均工賃は 14,368 円（昨年より+593 円）、最高工賃受給者はクリーニング業で働いている方で 1 ヶ月 70,000 円前後、軽作業で 33,000 円前後、最低の方は軽作業で 300 円前後となっています。工賃算定は時給制となっているため就労時間によって増減するので、体調管理に気をつけ本人が希望する工賃に近づける後押しが必要となります。工賃改定見直しは年 2 回個人工賃算出チェックリストを用いて日常生活・対人関係・作業能力・作業態度の評価を実施しています。

#### 利用者工賃（時給）

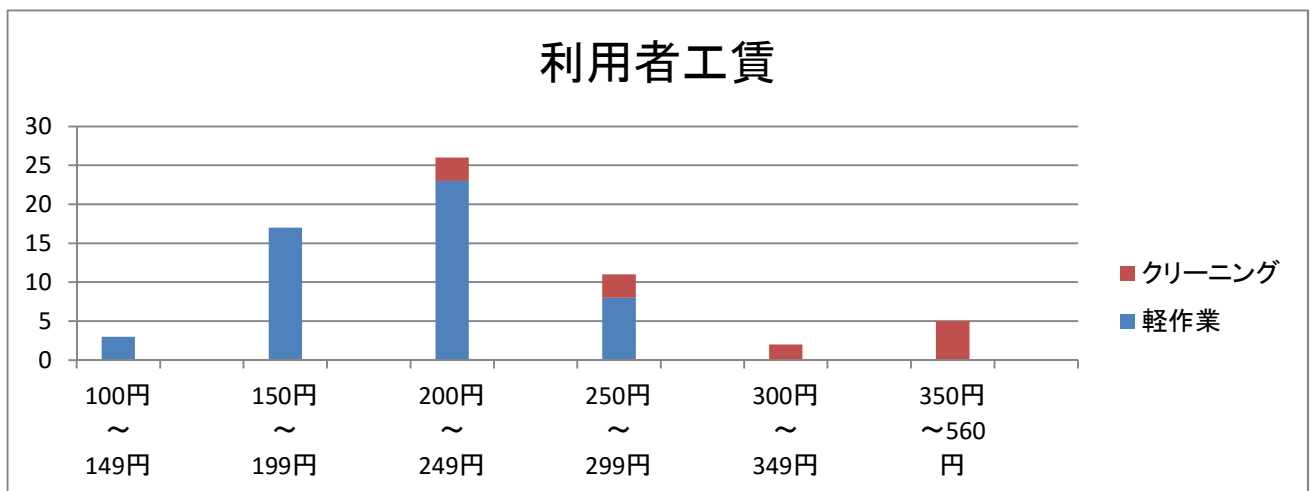
表②

※ 平成28年3月の工賃より算出（対象者64名）

	100円～ 149円	150円～ 199円	200円～ 249円	250円～ 299円	300円～ 349円	350円～560円	合計
軽作業	3	17	23	8	0	0	51
クリーニング	0	0	3	3	2	5	13

(人)

#### グラフ⑤



■利用者研修は、2～3ヶ月に1度の頻度で年5回の研修を実施しました。「(表③) 参照」

## 研修内容

表③

	内容	参加人数
第1回	笑いヨガ【笑いの体操とヨガの呼吸法でストレス解消】	33
第2回	SST【仕事に必要な報・連・相とは】	42
第3回	当事者の語りを聞こう【障害を持ちながら働くということ】	43
第4回	新年にあたって【お餅つき&今年の夢を語ろう】	41
第5回	音楽療法【音楽に合わせて心もリフレッシュ!】	41

利用者の状況やニーズも取り入れた企画とし、座学的な研修だけではなく職場から離れて交流する季節ごとの研修会として、春は運動会、秋には香川県のレオマワールドに行きました。

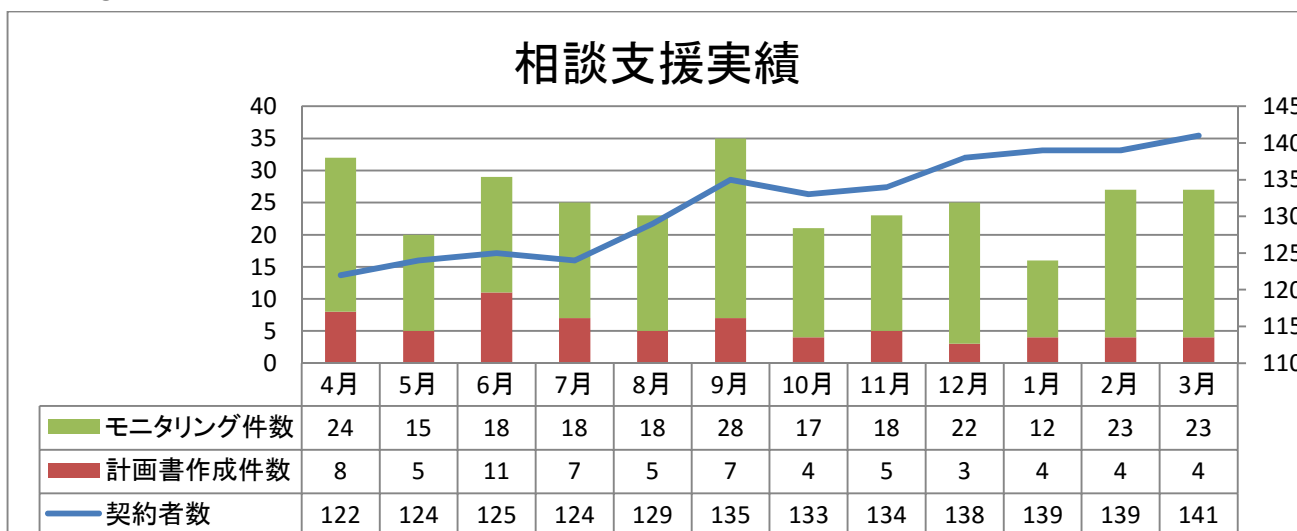
■職員のキャリアアップは、近森病院主催の疾患理解の講演や高知県・高知市が主催する研修会に積極的に参加し学習する機会をもちました。就労支援事業所に求められる職員の専門性とは、個々の利用者の持つ能力を活かし仕事の中でさらに引き出していくことであり、そのためにはコミュニケーションを充分にとってストレングス視点で把握していくと共に、仕事を通じて日常的な利用者の“能力”向上を図る支援の力が必要とされています。さらに各作業種目に必要な専門スキル研修（クリーニング師研修・サービス管理責任者・目標工賃達成指導員など）などの学習会に積極的に参加しました。今後も現状に満足するのではなく幅広い分野に対応できる知識やスキルを獲得していくことが継続課題です。今年、研修資格のあった藤田あゆみ支援員が「サービス管理責任者（地域生活・就労分野）」を、西岡由江が「サービス管理責任者（地域生活分野）」を、高橋七瀬相談支援専門員が「相談援助実習 実習指導者」の認定研修を修了しました。

## 2. 障害者福祉サービスセンターウェブ相談支援事業所

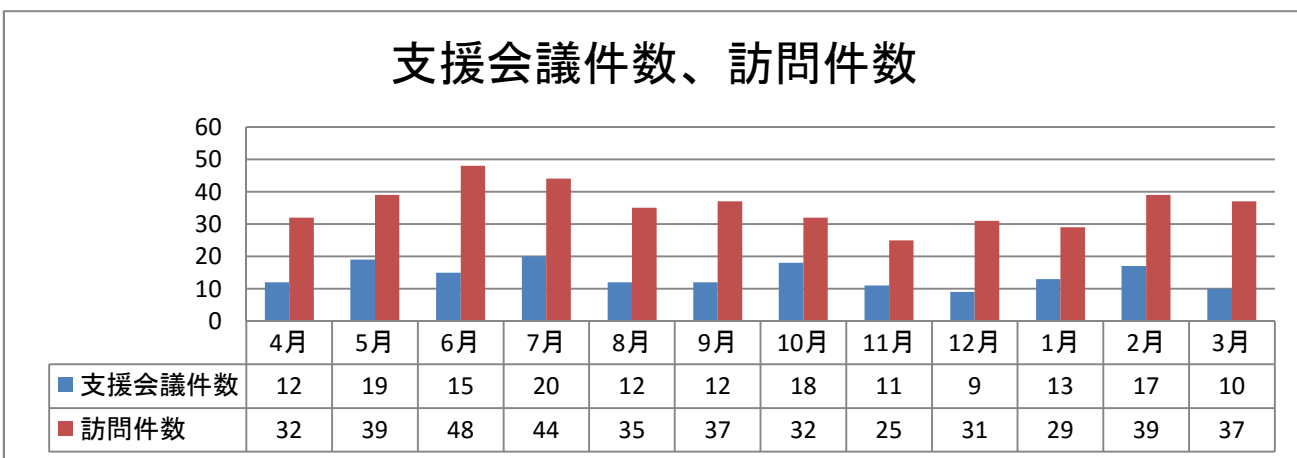
当事業所は平成25年4月に開所し、3年が経過しております。特定相談支援事業とは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の理念に基づき、障害者が居宅において自立した日常生活を営むために必要な保健医療サービスまたは福祉サービスの適切な利用等を行うことができるよう、本人の依頼を受けて、その心身の状況、その置かれている環境、利用者及びその家族の希望を勘案し、利用する障害福祉サービス等の種類及び内容、その他省令で定めた計画（サービス等利用計画）を作成するとともに、当該サービス等利用計画に基づく障害福祉サービス等の提供が確保されるよう、サービス事業者等その他の者との連絡調整、その他便宜の提供を行っています。

■契約者数は、新規契約が 30 名、契約終了が 14 名と緩やかではありますが増加し 12 月末で 141 名となっています。「(グラフ①) 参照」新規契約者やサービス変更による計画書作成件数は総数 67 件で月平均 5.5 件、計画作成後のモニタリングでも月によって変動がありますが、月平均 19.6 件と多忙な 1 年であったことがわかります。支援会議件数は、月平均 14 件、訪問件数は月平均 35.6 件、契約件数に比例して増加しています。「(グラフ②) 参照」支援会議や訪問以外にも生活相談や様々な対応をすることも多く、平成 26 年に比べ件数も増えています。最も多い 3 月を見ると、延べ件数 270 件で一日平均 12.2 件の対応に当たっています。「(グラフ③) 参照」相談支援業務は、相談業務以外にも作成する書類が多く、申請手続きまでの手順の複雑さに加え、モニタリング訪問や利用する事業所等との支援者会議の調整を行ったり、受け持つ件数が増えれば増えるほど業務が増えていくのが現状です。開所から相談支援専門員一人に対応してきましたが、相談支援専門員 1 名で受け持てる利用者数には限界があるため事業所として対応を検討しなければならないと考え、各契約者の様々な動きに対応ができるよう、8 月から相談支援専門員を増員して対応することとしました。

グラフ①

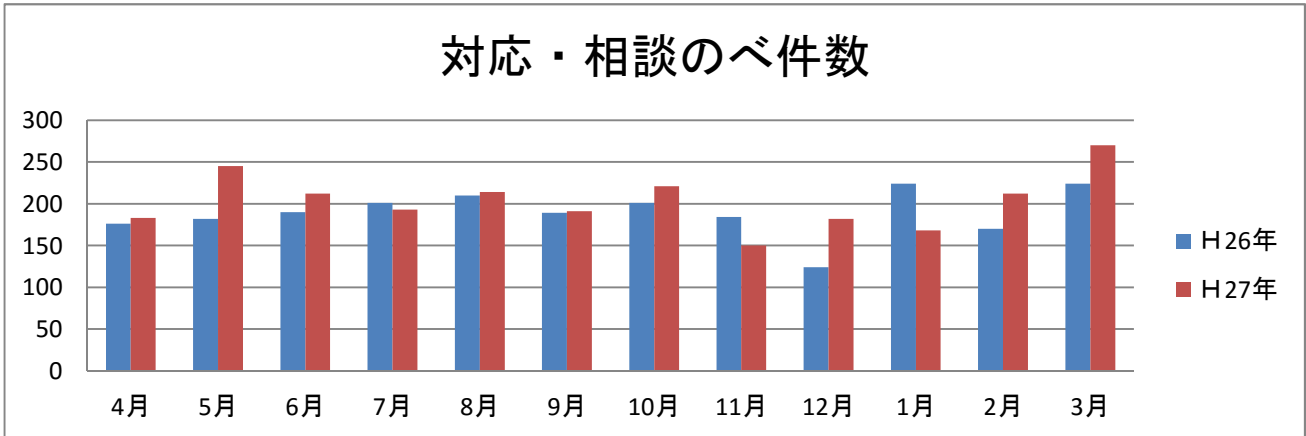


グラフ②





グラフ③



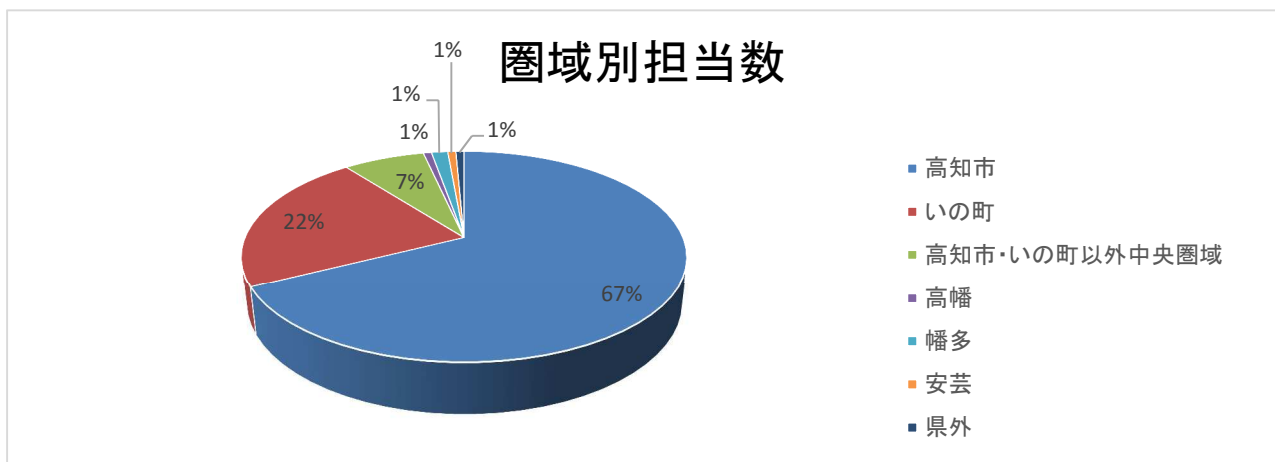
■契約者の受給者証発行元の市町村別にみると、高知市が96件と最も多く次に委託事業を受けているいの町が31件となっています。「(表①) 参照」保健圏域で見ても、高知市といの町を含む中央圏域が相談の96%を占めています。「(グラフ④) 参照」中央圏域とはいえ東西南北に長く、相談支援を受けるにあたり自宅や自宅近くの事業所等へ出向いての相談が多いため、時間やスケジュール調整が必要とされています。さらに、膨大な書類作成が業務として必須であり、時間、書類などの業務管理を意識することが能力として求められています。

市町村別担当数

表①

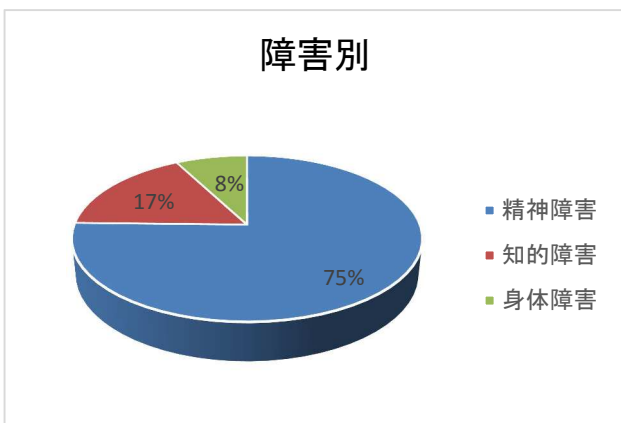
高知市	安芸市	南国市	香南市	香美市	四万十市	土佐町	いの町	仁淀川町	佐川町	四万十町	三原村	宮崎市	合計
96	1	2	1	2	1	1	31	1	3	1	1	1	142

グラフ④

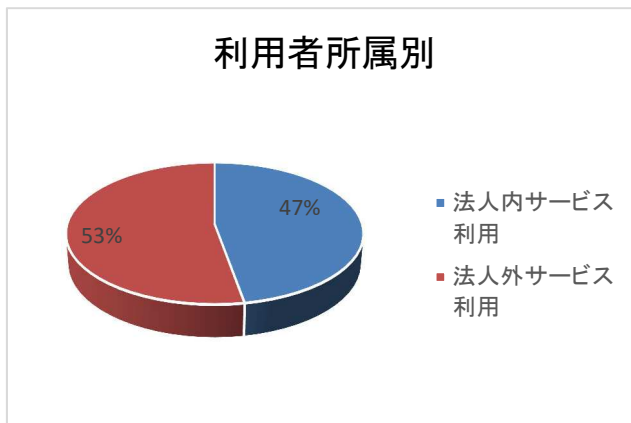


■契約者を障害別に見ると、精神障害者が 107 名と全体の 75%を占めています。他は知的障害者が 24 名（17%）、身体障害者が 11 名（8%）でした。「(グラフ⑤)参照」当事業所の就労支援部門とグループホームポルト利用者の約 9 割の特定相談支援を担っていることで、精神障害者の契約数が多い特徴があります。契約者登録 142 名を法人内と法人外の所属別に見ると「(グラフ⑥) 参照」法人内が 67 名（47%）、法人外が 75 名（53%）と同法人内だけの相談支援ではなく、地域でサービスを必要としている障害者への相談件数が増えています。疾病と障害の両方を抱えている精神障害者にとって生活のしづらさなど抱える課題が多く、契約者ひとりひとりのニーズにあったサービス利用に向けてのマネジメント能力を高めることが求められています。

グラフ⑤

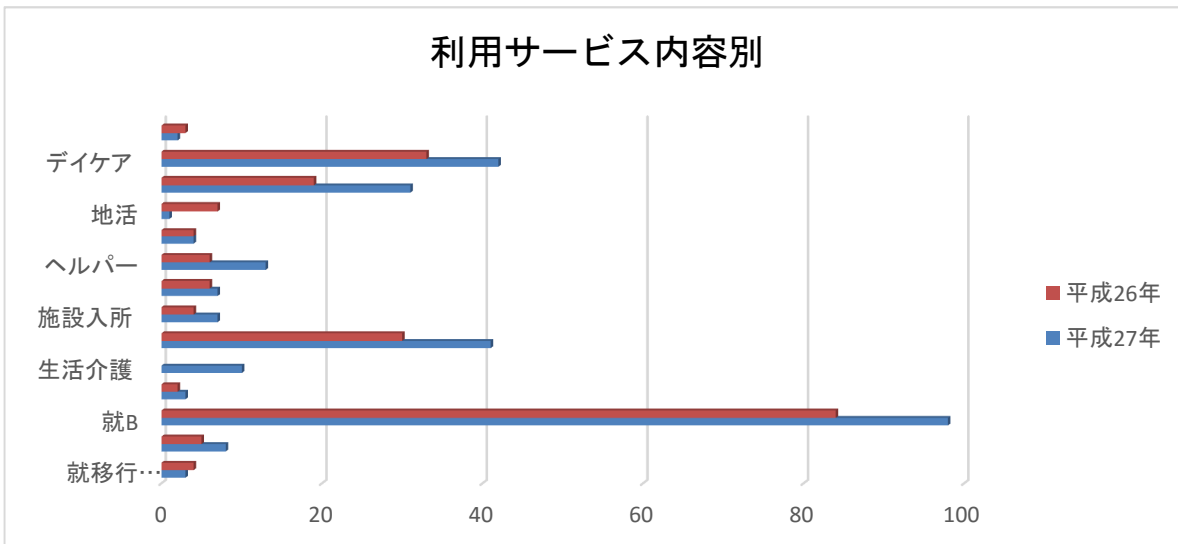


グラフ⑥



■利用サービス別にみると、就労継続支援 B 型事業所利用が一番多く 98 件、続いてグループホーム利用が 41 件、ヘルパー利用 13 件、生活介護 10 件、就労 A 型 8 件、就労移行 3 件、施設入所・日中一時支援各 7 件、権利擁護 2 件となっています。「(グラフ⑦) 参照」デイケアや訪問看護の値も高く、精神障害者の支援の特徴といえる医療と福祉の両輪で支えている現状がうかがえます。このグラフは、利用者が重複して使っているサービスとして掲載しており、昨年以上に多様なサービス資源を活用し社会生活を送られている実態がみられます。今後も一層他機関との連携を図り、契約者の方の将来の生活を一緒に考え、充実した毎を送れるようお手伝いをしていきたいと考えています。

グラフ⑦



■平成27年4月よりサービス等利用計画書の作成が必須となり、支給の有効期限前に作成の依頼が増加。同時期に「学校卒業後に就労継続支援B型の利用を予定している生徒への就労移行支援事業所等によるアセスメント」の実施、さらに平成28年1月よりマイナンバー制度も開始となりました。今後も様々な制度の変化やサービス変更の情報収集に努め、手続きなどに対応できるようにしていきたいと考えています。

### 3. グループホームポルト（共同生活援助）

それぞれ障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律で位置づけられた障害福祉サービスで、知的障害者、精神障害者、身体障害者が「世話人等」の支援を受けながら、複数で共同生活する居住の場です。平成22年にポルトを開設し、定員12名(男性6名・女性6名)で通過型のホームとし、自立訓練支援を行っています。

■定員12名に対する年間実績は下記に示す通りで稼働率88.9%でした。「(表①) 参照」3月末時点での入所者は12名であり男性6名、女性2名で、障害別にみると精神障害者11名、知的障害者0名、身体障害者1名でした。「(表②) 参照」利用者の年齢は20代1名、30代2名、50代5名、60代4名で、生活能力を獲得して自立生活に移行する若者層と、入退院を繰り返し次へのステップが難しい高齢層の二極化が見られています。「(表③) 参照」

月利用状況

表①

平成27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成27年度稼働率	平成26年度稼働率
登録者	12	11	11	11	12	12	11	10	11	11	12	12	94.4	86.1
男性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	100.0	75.0
女性	6	5	5	5	6	6	5	4	5	5	6	6	88.9	97.2

\* 稼働率…満室を100%とした時の数値

障害種別

表②

障害種別	
知的	0
精神	11
身体	1

(人)

年齢別

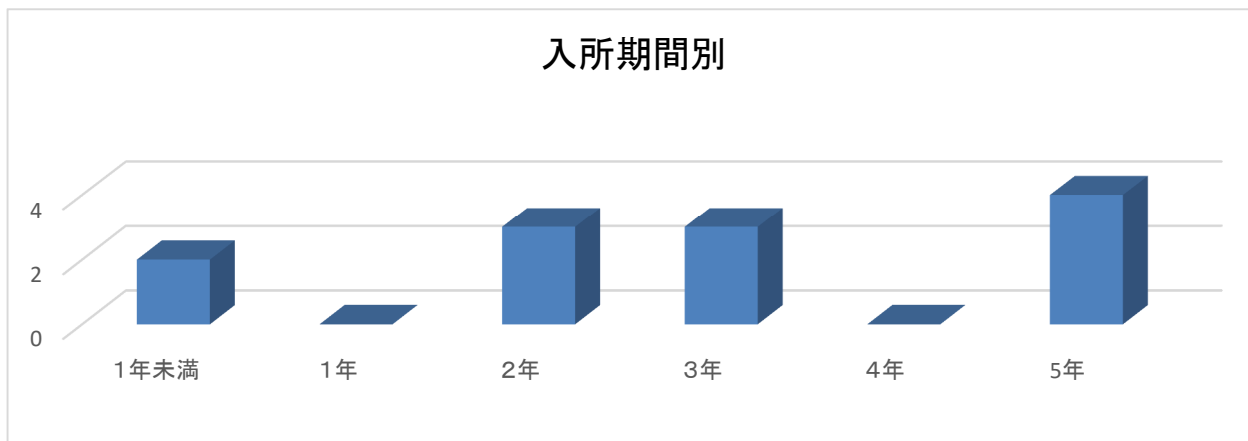
表③

	平成26年度	平成27年度
20代	1	1
30代	1	2
40代	1	0
50代	5	5
60代	4	4

(人)

■利用期間別に見ても1年未満が1名、2～3年が6名、5年が4名、となっています。利用期限は明示してはませんが通過型のGHとして支援している状況で、5年以上利用している利用者が多い現状にあります。次へのステップに向けて支援しているのですが、高齢化・金銭的困窮・病状不安定など様々な生活のしづらさがあるため、時間をかけながらご本人が望まれる生活に移行できるように個別性に配慮しながらかかわっていく必要があると考えます。

グラフ①



■見学者数は10名で、高知市内外の医療機関や相談支援事業所から紹介を受けています。障害別では統合失調症や発達障害、うつなどの精神障害者が多く見学に来られました。知的障害をもたれた方も来られましたが、親亡き後を安心して一生入れるグループホームを探されているといった意見もあり、通過型の支援を目指しているポルトではないと判断される場面も見られました。体験利用にまで至った方は6名であり、そのうち入所になった方は5名でした。入所者の5名は、精神障害者（統合失調症・発達障害・医療観察処遇中）であり、年齢も20歳代1名、30歳代1名、50歳代3名と幅が広く生活のしづらさ等も様々でした。

■退所者は3名で、退所先はアパート単身生活1名と実家2名でした。ポルトでの生活訓練を経て、1名はアパートでの一人暮らしが可能となり退所され、退所後は訪問看護サービスとウェブを利用しながら単身生活を送っています。他2名は、ポルト入所中に復職デイケアに通所され職場に復帰、高知市内の生活より実家での生活環境を選択され退所となりました。

#### ■年間行事

ケース検討とケア技術の向上、知識向上のため毎月世話人会を実施し、生活全般にわたって入所者一人ひとりに応じた個別支援を心がけました。季節に応じたお楽しみメニューに加え、クリスマスや忘年会など様々な行事やレクレーションなども行い、生活を楽しむということにも力を注ぎました。

■まとめとして、グループホームは単なる住居でなく、支援者と仲間がいてプライバシーが尊重された自由な場所であると考え、障害者の安心と安全な場として重要な役割を果たしています。ポルトという言葉の意味は“入り口”です。自分が描く生活に向かって一歩踏み出せる入り口としてこれからも支援をつづけていきたいと思っています。

作業種目	取引先	作業内容		
クリーニング	近森会	看護・コメディカルユニフォーム、病棟・外来洗濯物 入院患者洗濯物のクリーニング		
	松田会	入院患者洗濯物のクリーニング		
	イオンスポーツクラブ	バスタオルなどのクリーニング		
開発商品作業	近森会	使い捨て紙エプロンの作成		
	近森会	氷枕カバー、マスクケース		
委託作業	西村謄写堂	DM、箱作り		
	望月製紙	トイレトペーパー包装、ティッシュ包装		
	フロムハート	防災布団検針、防災グッズ詰め		
	高知県理学療法士会	ダイレクトメール発送作業		
	高知県言語聴覚士会	"		
	日本精神科看護協会 (高知県支部)	"		
	近森会	"		
	やまくに	いりこ分解分別作業		
	穴吹興産	パンフレットOP、パンフレット袋入れ		
	近澤製紙	花かれんシーラー加工・検品		
	銀のさら	宅配用品梱包		
	高知県社会就労セン ター協議会(SELP)	梱包	Zクリーン(粉)	シール貼り・計量入れ・箱詰め
			フラックス	シール貼り・計量入れ・箱詰め
			Zクリーン(液体)	シール・袋入れ
	(株)グローブ	縫製	シーツ	修繕(ミシン)
			枕カバー	裁断・線引き・縫製(ミシン)
		箱折	ミレービスケット ドレッシング	大箱・小箱・仕切り・セット
		梱包	カルシウム	日付スタンプ・計量入れ・箱詰め
			ブドウ糖	シール貼り・計量入れ・箱詰め
			産褥パット	袋入れ・シーラー加工(梱包作業込)
単発		選挙ポスター	帯止め・封筒詰め・宛名シール貼り	
		かつをたたき	シール貼り・箱詰め	
近森会	病院周囲道路清掃	指定道路区域の清掃・雑草除去		
販売作業	近森オルソ病院	パン・クッキー移動販売	高知ハビリテーリングセンターより仕入れた パン・クッキー	
公益事業(清掃)	高知市都市整備公社	公園清掃	園内清掃・雑草除去	

## 平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター事業報告

### 総評

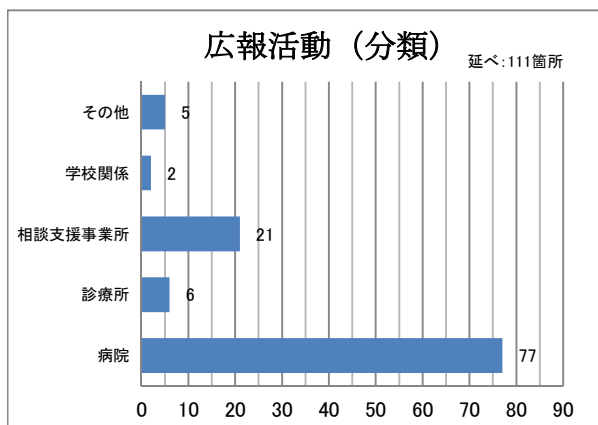
平成 26 年度に引き続き、平成 27 年度も施設入所者の地域移行や就労支援部(就労移行、B 型)利用者の増加等、当センターの機能を順調に発揮できました。特に B 型につきましては、利用者受け入れのために土曜日開所の定着や作業を確保し、高知県内では最も利用登録者の多い事業所となりました。そして、総数で見ますと、夜間支援の利用者が低下する時期には日中支援の利用者数が過去最高となり、経営面においては夜間支援のフォローをした形となっています。また、短期入所や放課後等デイサービスへの登録者数は増加し、定期的な利用や長期休暇中の利用に至っています。今後、当センターのように多機能型で運営することの有効性および有利性を益々発揮し、障害者一人ひとりに応じた支援、そして専門職として提案ができる力をつけていくことを全職員の目標としています。

昨今、国は個々の社会福祉事業所ではなく社会福祉法人(経営)そのものに着目し、国民に対して実践を通じたより一層の情報発信をするようにと示しています。具体的には、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るために社会福祉法等の一部を改正する法律案が出されており、平成 28 年 4 月より施行されるものもありますが、平成 29 年 4 月からの施行部分においては、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上や財務規律の強化等、社会福祉法人制度の改革が求められています。

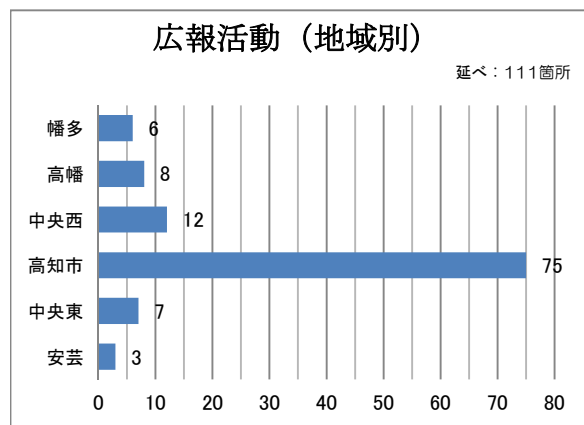
今後の社会福祉法人のあり方は激変していくものと思われませんが、当センターにおきましては、開設当初より地域のニーズに応える公共性、利益は福祉サービスの更なる充実に活かす非営利性、そして、地域住民やご利用者に不安を抱かれぬよう安定性を持つ等、常に透明性のある運営を展開しております。いかなる国の指針が示されましても、社会福祉法人そして社会福祉事業所としての理念に基づく姿勢できておりますので怯むことはないと思っております。いかなる場合でも、迅速な対応や準備をしていくことでご利用者に迷惑がかかることがないよう臨む所存です。

#### ■ 広報活動

グラフ①



グラフ②



上のグラフ①②に示しますように、平成 27 年度におきましても、事務長とソーシャルワーカーが週に一回ペースで継続して広報活動を行いました。その結果として、これまで相談のなかった機関からの利用相談もあり、実際に利用につながったケースもありました。また、他機関とのつながりも増えた実感しています。

ただし、表 1 に示しますように、年度後半から施設入所者の減少、機能訓練事業においてはこれまでにない数値で停滞した状況で平成 27 年度を終えました。県内唯一の機能訓練事業所でありながらもこの数値は、深刻な課題でもあります。1.5 年の期限とはいえ、当センター利用者の障害レベルは先方からは受け入れたい障害者でもあり、次施設からの受け入れが近年速いペースになってきたように思えます。そのようなことを念頭におきながら、利用者確保に臨まなくてはならないと考えています。

■27年度3月31日付け登録者数

表①

	事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日中支援	機能訓練	26	37	36	35	36	35	34	29	27	28	25	26	28
	生活訓練	8	10	11	12	12	12	11	11	11	12	12	12	12
	生活介護	6	12	12	12	12	12	13	14	14	13	13	13	14
	就労移行	10	10	10	11	11	9	11	11	13	11	13	15	13
	B型	50	88	88	87	88	87	89	88	89	91	94	93	94
夜間支援	施設入所	40	41	41	41	40	39	40	37	34	36	36	35	37
	ハビホーム	36	36	36	36	36	35	34	34	33	34	35	35	35
	短期入所		83	83	83	83	85	85	87	89	90	92	96	100
	キュール	10	71	71	71	71	72	73	75	75	75	75	80	74

■地域貢献・地域に開かれた施設づくり

2年目の「ハビリ地域フェスティバル」は約250名の来所があり、地域の方々も出店していただくなど盛会イベントとなりました。また、地域の恒例行事である草刈り、夏祭り、秋祭りに参加しました。

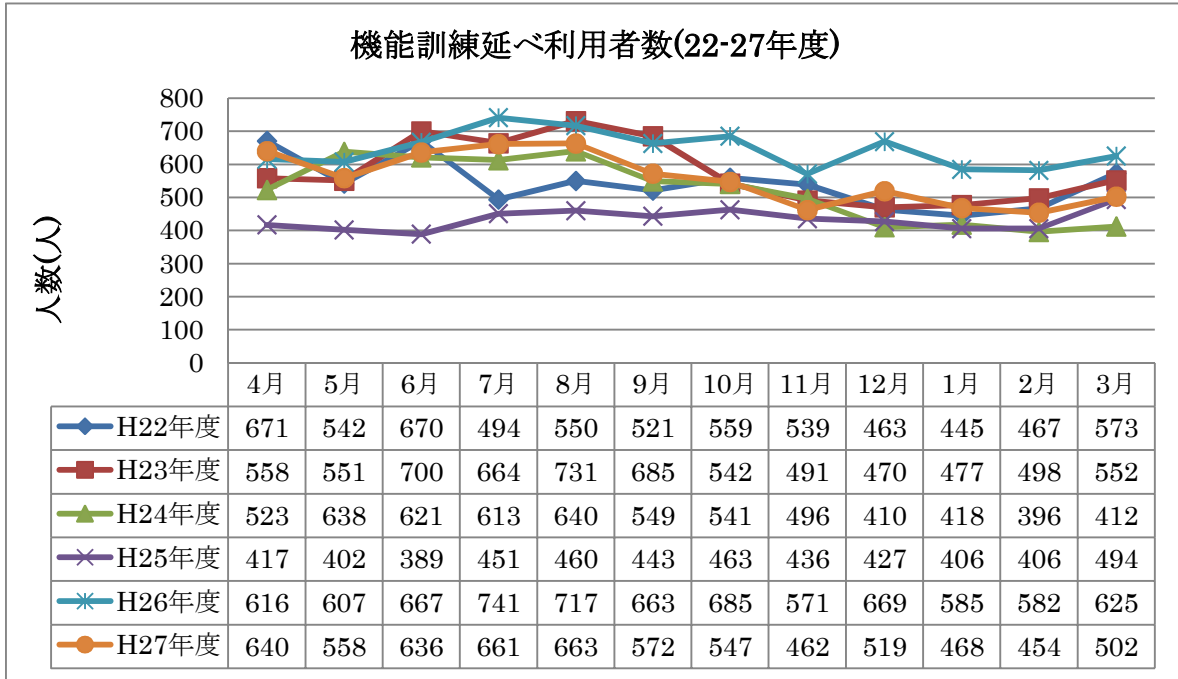
平成 27 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター  
 自立(機能・生活)訓練事業報告

1. 利用者状況

(1) 延べ利用者数

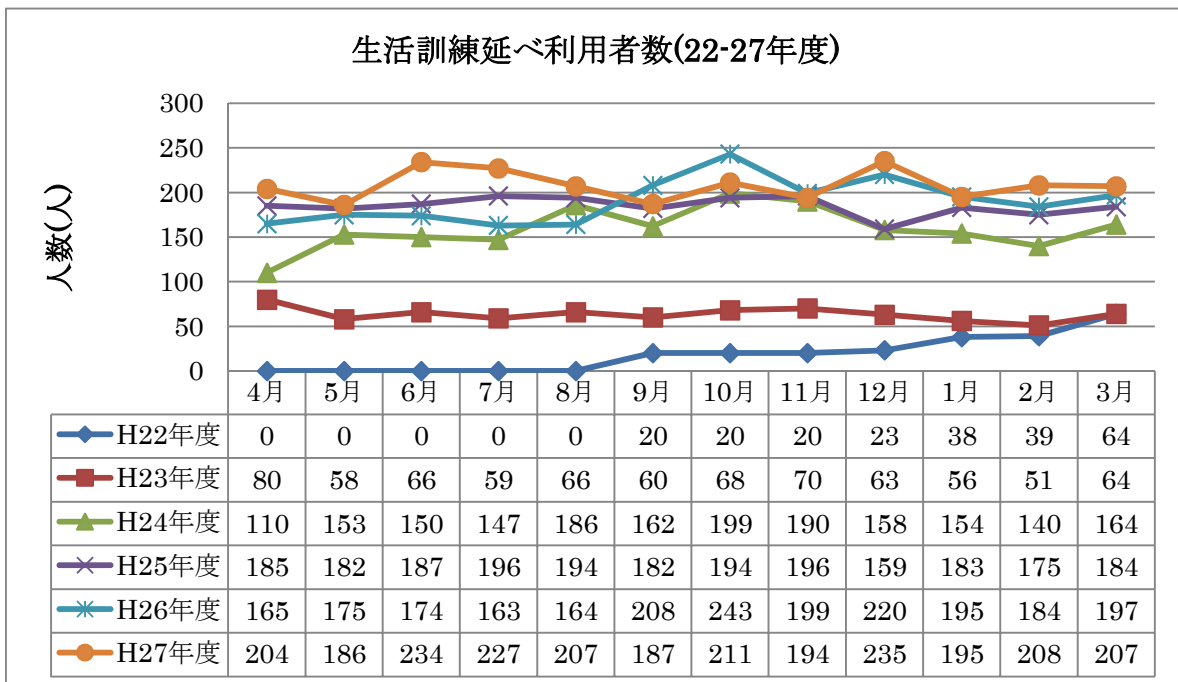
<機能訓練(身体 1.5 年)>

グラフ①



<生活訓練(知的・精神 2 年)>

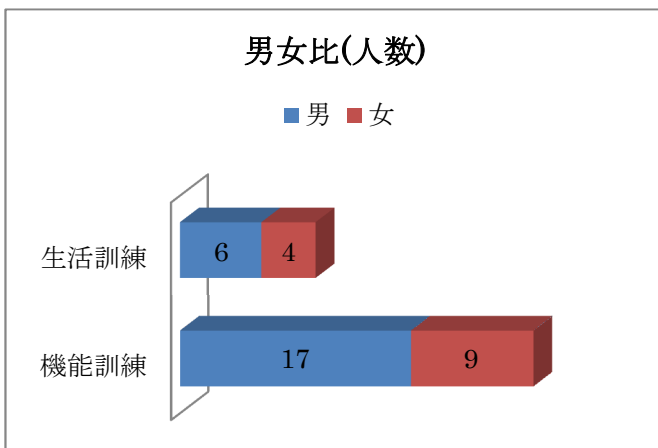
グラフ②



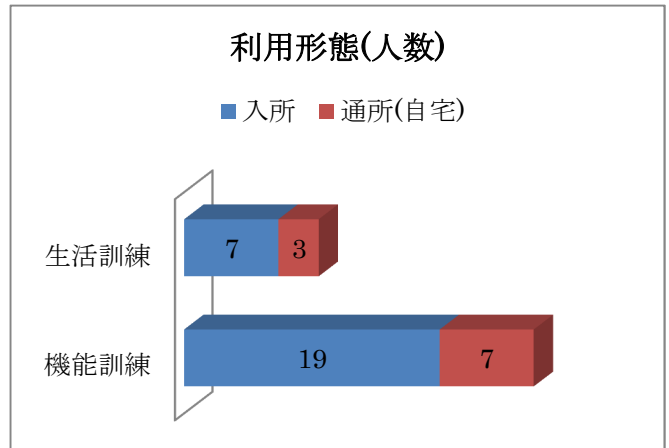


(2) 新規利用者(機能訓練 26 名・生活訓練 10 名)の概要

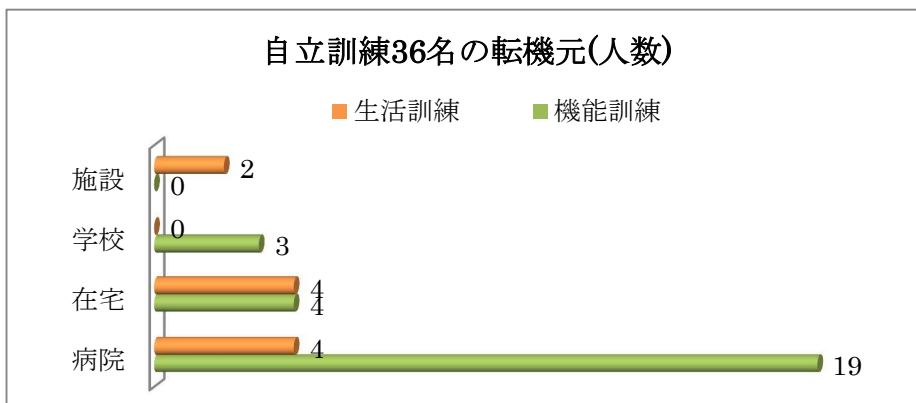
グラフ③



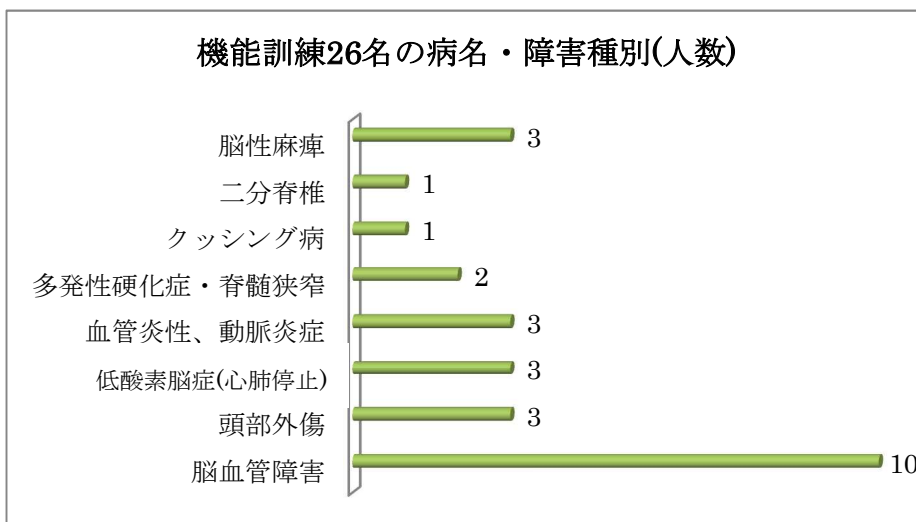
グラフ④



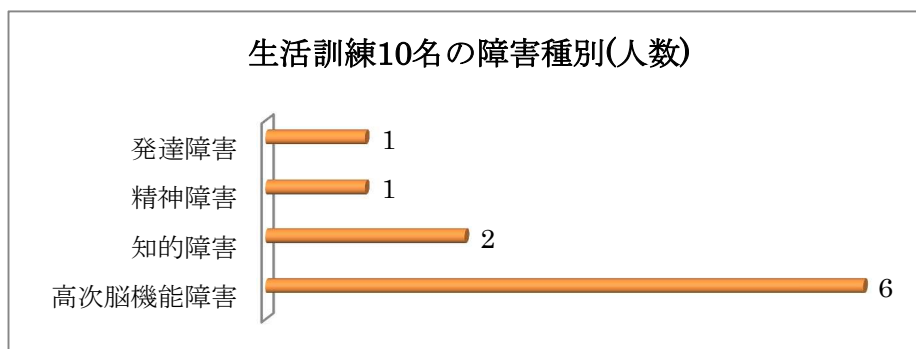
グラフ⑤



グラフ⑥

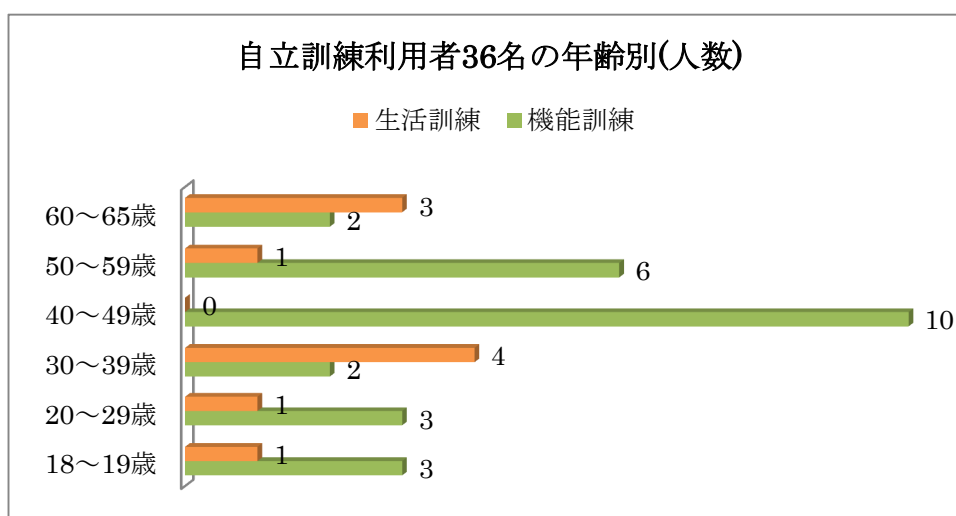


グラフ⑦



新規利用者数は、平成 26 年度は機能訓練 24 名、生活訓練 9 名でしたので、平成 27 年度の新規利用者数は増加しました。機能訓練は病院からの紹介が圧倒的に多く、生活訓練で施設からの利用となった 2 名は、家庭での生活が困難な方、そして病院からの紹介 4 名は高次脳機能障害の方です。

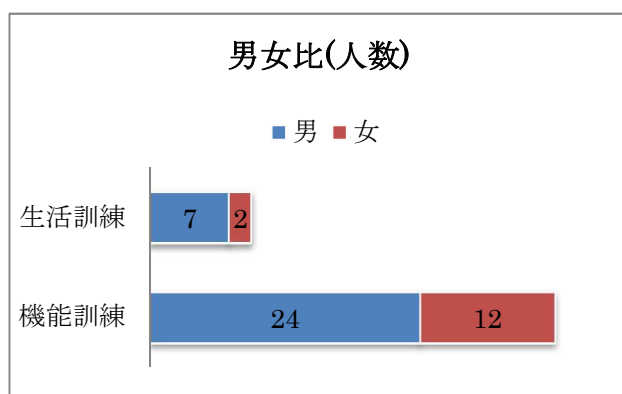
グラフ⑧



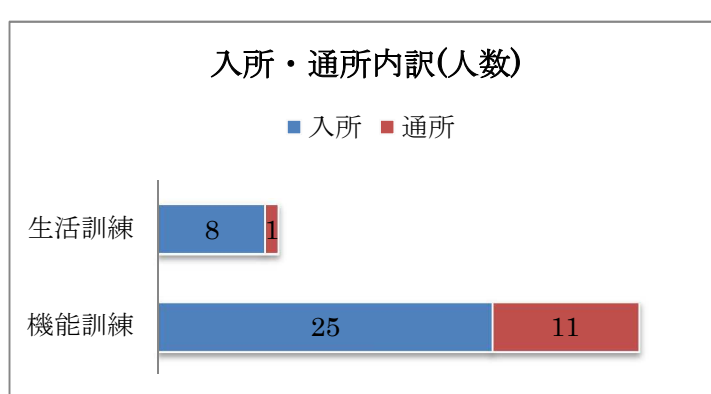
年齢別にみますと、二号被保険者年齢のご利用者が 26 名のうち 18 名であり、介護保険サービスによる弊害は少しずつ減ってきているように思われます。生活訓練においては、知的障害や発達障害の若年層と高次脳機能障害者の中高齢層となり年齢幅や障害特性の違いによる訓練の工夫が必要となりました。

(3) 終了者の概要(機能訓練 36 名・生活訓練 9 名)

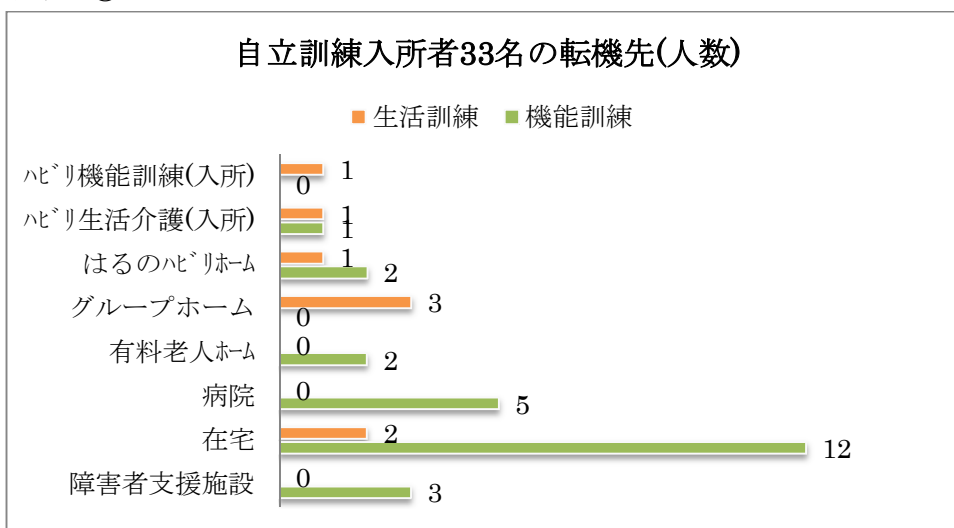
グラフ⑨



グラフ⑩

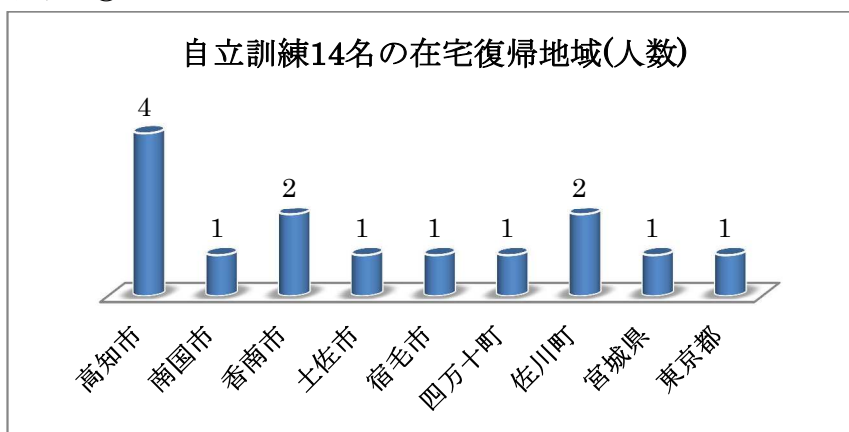


グラフ⑪

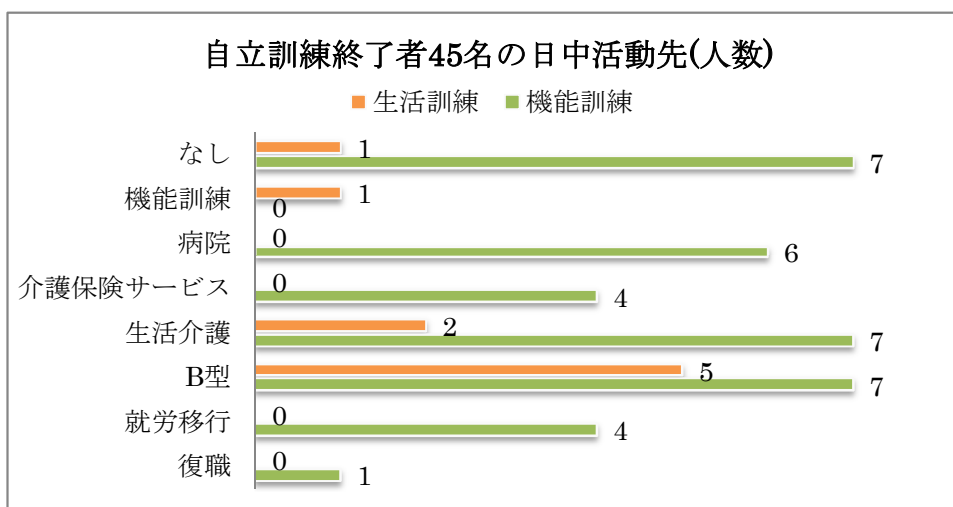


新規自立訓練利用者総数 45 名中 33 名が施設入所されていましたが、在宅 14 名、グループホーム 6 名の計 20 名が地域移行しました。また、施設入所継続で、身体障害者手帳を取得した為に生活訓練から機能訓練へ、障害者支援施設入所待機の為に当センターの生活介護へと計 3 名が利用サービスを変更しました。

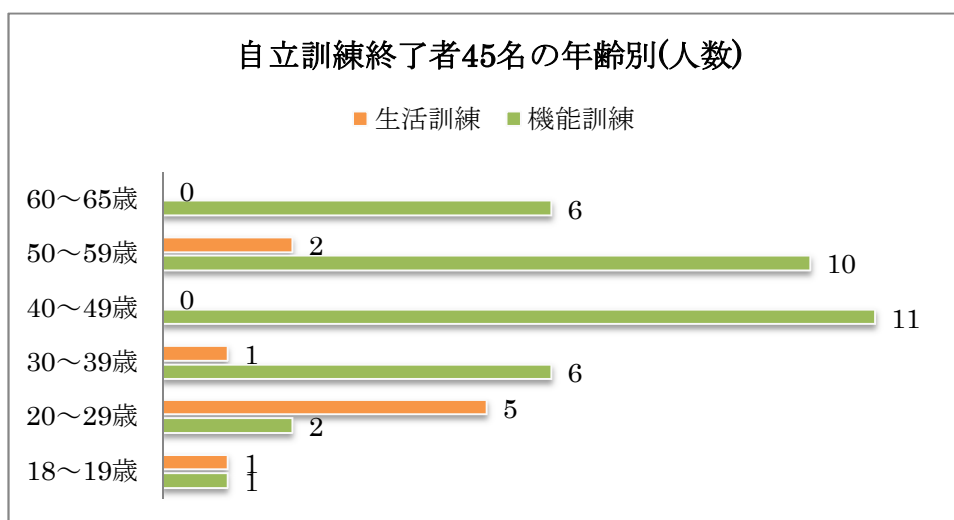
グラフ⑫



グラフ⑬



グラフ⑭



在宅の場合は、それぞれの地域で何らかの日中活動はされるよう障害福祉サービスもしくは介護保険サービスが利用できるよう地域事業所へと連携を図ります。「活動先なし」7名につきましてもサービス利用の決定には至らない状態で終了はされましたが、特定相談支援事業者やケアマネージャーにはおつなぎをしています。

生活訓練から入院となった利用者はありませんでしたが、機能訓練においては6名が入院となり、そのうち、1名は再発で死去、5名は退院の目処が立たず終了となりました。

また、機能訓練利用者には、東京の会社へ復職するために東京の新たな住居を探し、東京の障害者就労センターを利用し復職された方がいます。そして、県内での公務員復職に向けて、早期から先方の産業医が関与され、当センター就労移行を経由せず、通勤と業務内容を考慮された職場に復職しました。いずれの復職先につきましても、早期から状態や状況報告、カンファレンスの開催等、先方からのアクセスをいただき復職の受け入れ姿勢を感じられました。このような場合は、身体機能面に応じた通勤手段と環境設定を検討していくことから、就労移行を経由せず自立訓練からの復職支援が有効でした。

## 2. 訓練実施状況

### (1) 施設内訓練

表①

科目	訓練内容
PT	<p>最大限の機能能力 Up を図り、また、動作方法の検討や指導、車いす・補装具などの利用、環境調整を行い、自身の残存能力を最大限に発揮できるスキルを獲得。退所後の生活に向け、能力の維持向上、体調管理などの自己メンテナンスが行えることを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行、階段昇降訓練</li> <li>・ 筋力強化訓練</li> <li>・ バランス訓練</li> <li>・ 応用動作訓練</li> <li>・ 関節可動域訓練、ストレッチ</li> <li>・ 物理療法</li> <li>・ 自主トレ指導、課題指導</li> <li>・ 機能能力評価、動作チェック</li> <li>・ ADL 評価、環境調整</li> <li>・ 車いす管理</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 装具・車いす相談</li> </ul>
OT	<p>将来的な生活を見据えた日常生活動作の自立、作業遂行技能の向上を目的に動作訓練や課題の提示、代償手段の提供などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活動作訓練</li> <li>・ 家事動作訓練</li> <li>・ 和室内動作訓練</li> <li>・ 自助具作製</li> <li>・ 手指巧緻性訓練</li> <li>・ 高次脳機能障害評価、訓練</li> <li>・ 復職向けの作業活動</li> </ul>
パソコン	<p>パソコンの基本操作から就労に向けてのビジネスソフト操作、また趣味や余暇等生活場面での使用を目的としたパソコン技術の獲得を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本操作：電源入切からマウス操作、入力練習を実施</li> <li>・ ビジネスソフト：Word・Excel・インターネット操作の習得</li> <li>・ その他：希望に応じて資格取得や応用ソフトでの練習を実施</li> </ul>
趣味・健康	<p>生活習慣病の予防や身体組成の改善、呼吸循環機能をはじめとする身体諸機能の維持向上のため行う。個人の目標を作り、取り組みの中で利用者自身の健康意識を高め、生活機能の低下防止、維持増進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己ストレッチ</li> <li>・ エアロビクス</li> <li>・ 筋トレ（ペットボトル使用）</li> <li>・ レクリエーションスポーツ</li> <li>・ エクササイズ（ジムニックボール・ストレッチポール等使用）</li> <li>・ 体力測定</li> <li>・ アロマセラピー</li> <li>・ 周辺散策、屋外歩行</li> <li>・ Wii</li> </ul>
コミュニケーション	<p>構音障害や失語症のある利用者に対して、テキスト形式やグループ活動を通して、コミュニケーションスキルの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト課題</li> <li>・ 書字</li> <li>・ 計算</li> <li>・ 意思伝達代償手段訓練</li> <li>・ 聞き取りと記載</li> <li>・ ジェスチャーでの表現</li> <li>・ 発声練習、音読</li> </ul>
体力トレーニング	<p>障害者スポーツセンター職員より指導を受け、スポーツを通して、自身で体力や活動性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストレッチ（ジムニックボール等）</li> <li>・ 障害者スポーツ（ボッチャ・ペタンク・バドミントン・ビームライフル・バランスボールサッカー・フライングディスク等）</li> </ul>

グループ訓練	各利用者を目的別にグループに分け、そのグループでの訓練を通して、それぞれの目標達成へ向けて支援を行った。 グループ分け <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活訓練若者グループ</li> <li>・生活訓練機能訓練混合グループ①</li> <li>・生活訓練機能訓練混合グループ②</li> <li>・余暇グループ</li> <li>・失語症グループ</li> <li>・女子グループ</li> </ul>
--------	---

(2) 施設外訓練

ア. 個別訓練

表②

行き先	訓練目的
免許センター	運転適性検査による評価
東部自動車学校	自動車運転の獲得
病院	通院の訓練自立
自宅	通所の自立
エースワン	買物の自立
公共交通機関	バス、電車等の利用自立

イ. グループ訓練

表③

グループ名	訓練内容
生活訓練 若者グループ	グループホーム、就労支援事業所、社会人について学習
生活訓練機能訓練 混合グループ①	映画館、調理、高知市障害者職業センター見学
生活訓練機能訓練 混合グループ②	外出、調理、高知市障害者職業センター見学
女子グループ	外部講師によるメイク指導
失語グループ	麻雀
余暇グループ	図書館、野球観戦、テーブルゲーム

ウ. ブレースクリニック・家庭訪問等件数

表④

	ブレースクリニック	家庭訪問	施設見学
件数	2	17	20

エ.その他（文化、芸術、スポーツ活動など）

表⑤

行事名	開催日時	参加者数
遠足	平成 27 年 5 月 21 日、5 月 28 日	45
障害者運転免許教室	平成 27 年 7 月 11 日	1
頭脳スポーツ大会	平成 27 年 7 月 26 日	3
春野町文化祭	平成 27 年 11 月 6 日～11 月 8 日	3
アビリンピック	平成 27 年 7 月 4 日	3
駅伝大会	平成 28 年 1 月 31 日	2
卓球大会	平成 28 年 2 月 11 日	8

(3)実習生

表⑥

性別・学年	学校名・期間・その他	
男性・3年	山田養護学校 平成 27 年 5 月 18 日 ～ 5 月 22 日	
男性・3年	若草養護学校 平成 27 年 6 月 1 日 ～ 6 月 2 日	
男性・3年	若草養護学校 平成 27 年 6 月 3 日 ～ 6 月 5 日	
女性・3年	若草養護学校 平成 27 年 6 月 8 日 ～ 6 月 12 日	
男性・3年	若草養護学校 平成 27 年 11 月 10 日 ～11 月 12 日	○
男性・3年	若草養護学校 平成 27 年 11 月 13 日 ～11 月 17 日	○
女性・3年	若草養護学校 平成 27 年 11 月 18 日 ～11 月 20 日	○

(○印は当センター利用となった方)

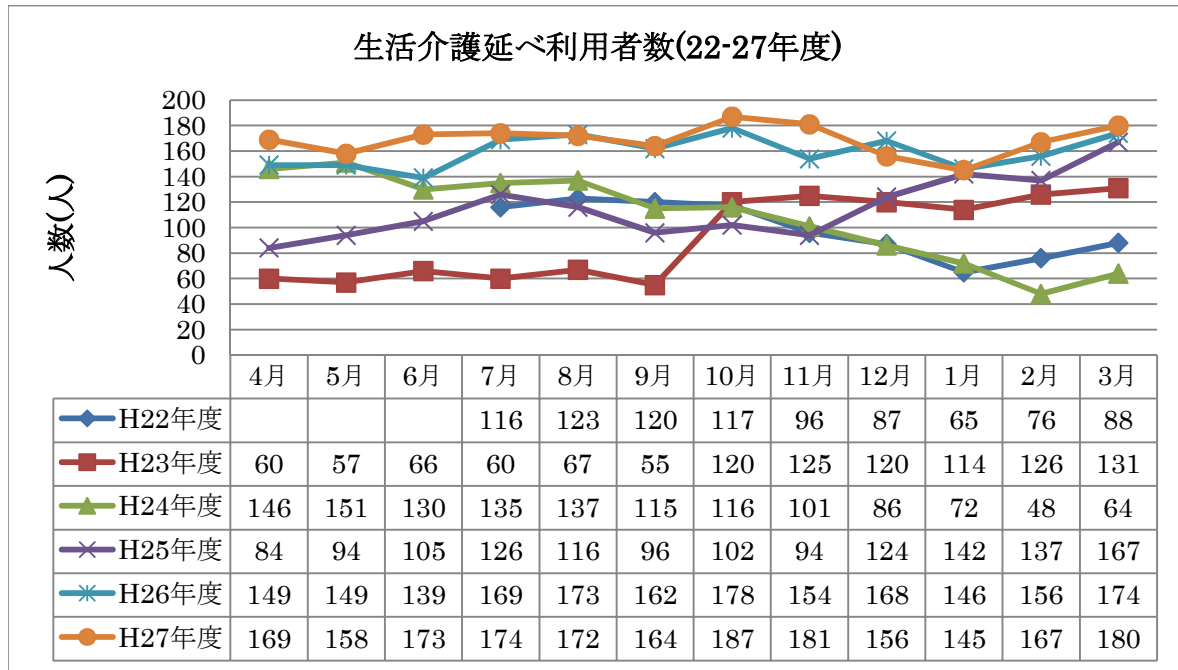
中途障害者に対する支援や訓練は、高次脳機能障害者支援には悩みながらも経験値があることで支援に  
関しての職員の迷いは少ないように思います。一方、機能訓練と生活訓練ともに特別支援学校卒業生に対  
しては、社会生活力を高めていくこと等の専攻科機能を果たすべきトレーニングセンターですが、27年度  
につきましては支援の不十分さにやや反省が残りました。表 1-6 に示しますように、在学中から実習で来  
所されていることから、学校教育とのスムーズな連携のあり方や訓練内容、保護者との関係づくり等  
についてよりよい検討をしていきたいと考えます。

平成 27 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター  
生活介護事業報告

1. 利用者状況

(1) 延べ利用者数

グラフ①



(2) 新規利用者 4 名の紹介元

表①

利用前居所	人数
病院(入院)	1
自宅	2
特別支援学校	1
合計	4

(3) 利用終了者 2 名の転機先

表②

退所先	人数
自宅	2
病院	0
障害者支援(生活介護)施設	0
高齢者施設	0
合計	2

2. 活動内容

表③

科目	内容
整容	身なりを整えることを怠らない習慣をつけていく。 (更衣、ひげそり等)
運動	体力維持や能力低下を防ぐために適度に身体を動かす。
体カトレーニング	スポーツセンター指導員によるトレーニングを行う。
学習	頭の体操や認知症予防のために座学として行う。
手芸	手指の動きが衰えないように楽しみも兼ねて行う。
ゲーム	視覚的刺激や敏捷性等も鍛えられ楽しみながら頭脳の活性化を図る。
ドライブ(散歩)	季節感を味わう場所への外出訓練を行う。
DVD鑑賞	楽しみの時間。
生産活動	生産活動を行い、日常生活の充実を図る。

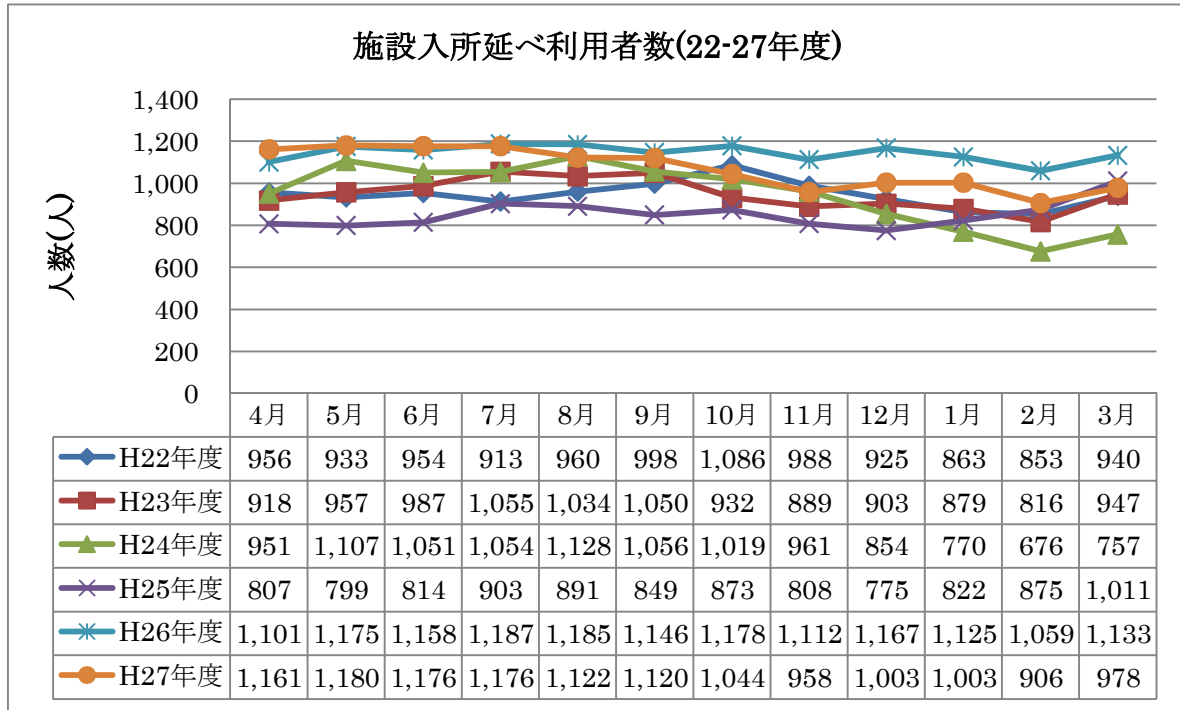


平成 27 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター  
施設入所支援事業報告

1. 利用者状況

(1) 延べ利用者数

グラフ①

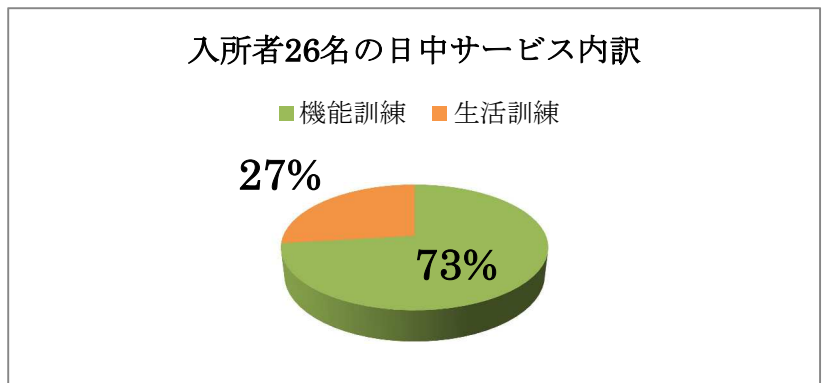


(2) 新規入所利用者 26 名の日中支援の内訳

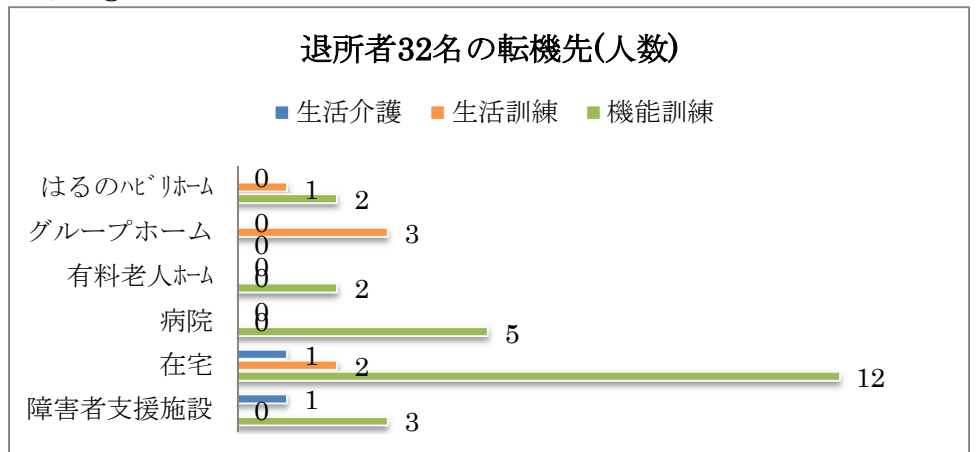
表①

事業名	人数
機能訓練	19
生活訓練	7
就労移行	0
生活介護	0
合計	26

グラフ②



グラフ③

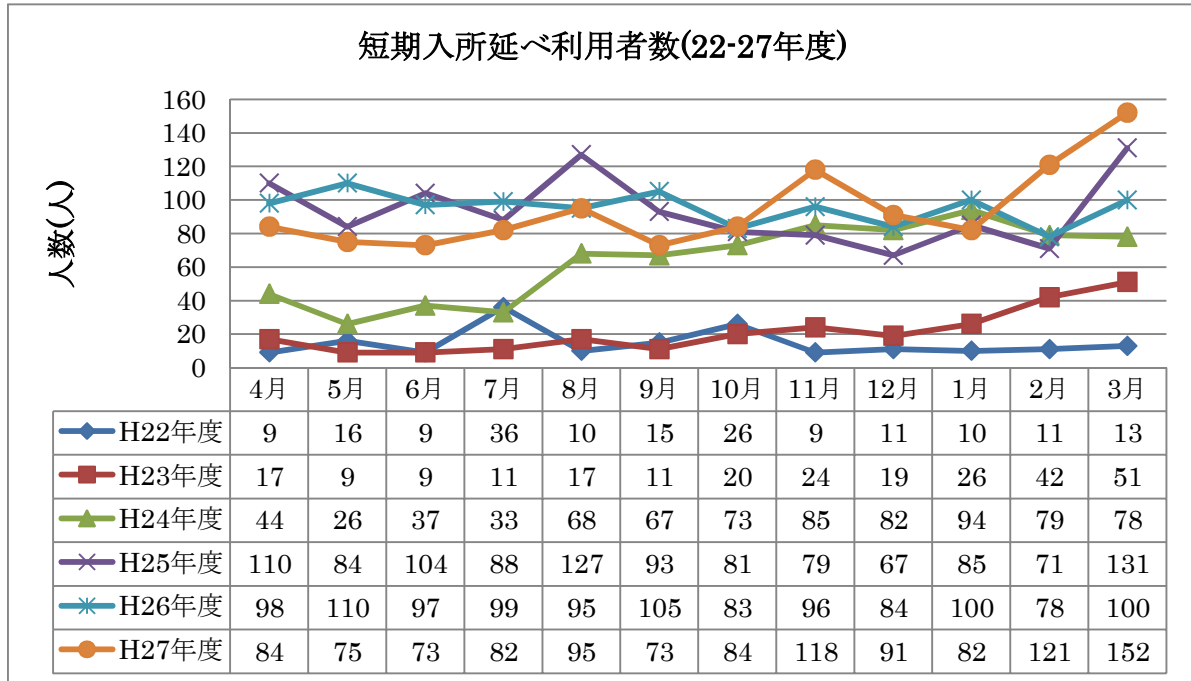


平成 27 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター  
短期入所支援(空床型・併設型)事業報告

1. 利用者状況

(1) 延べ利用者数

グラフ①

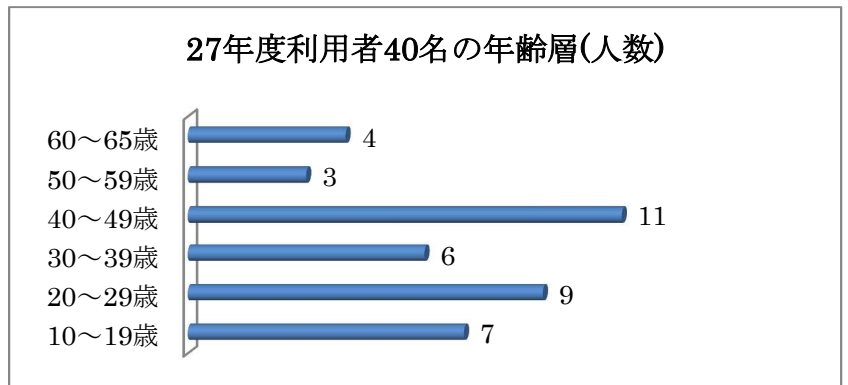


(2) 利用登録者数の推移

表①

年度	登録者数
平成 22 年度	8
平成 23 年度	13
平成 24 年度	21
平成 25 年度	20
平成 26 年度	18
平成 27 年度	20
合計	100

グラフ②



平成 27 年度内の新たな登録者数は 20 名であり、40 名の利用者が利用されました。一回の利用期間や目的は様々ですが、延べ 316 件となりました。年齢層は、最年少は 16 歳から最高年齢 63 歳でした。また、二号被保険者でも当センターのショートステイ利用が許可される(高知市)ようになり、利用者ご本人も当センターならばショートステイ利用をされ、子育て中のご家庭や介護者にとりましてのレスパイトができていいると思われまます。

施設入所の空床利用で売り上げをカバーしており、3 月には過去最高の延べ利用者数となりました。

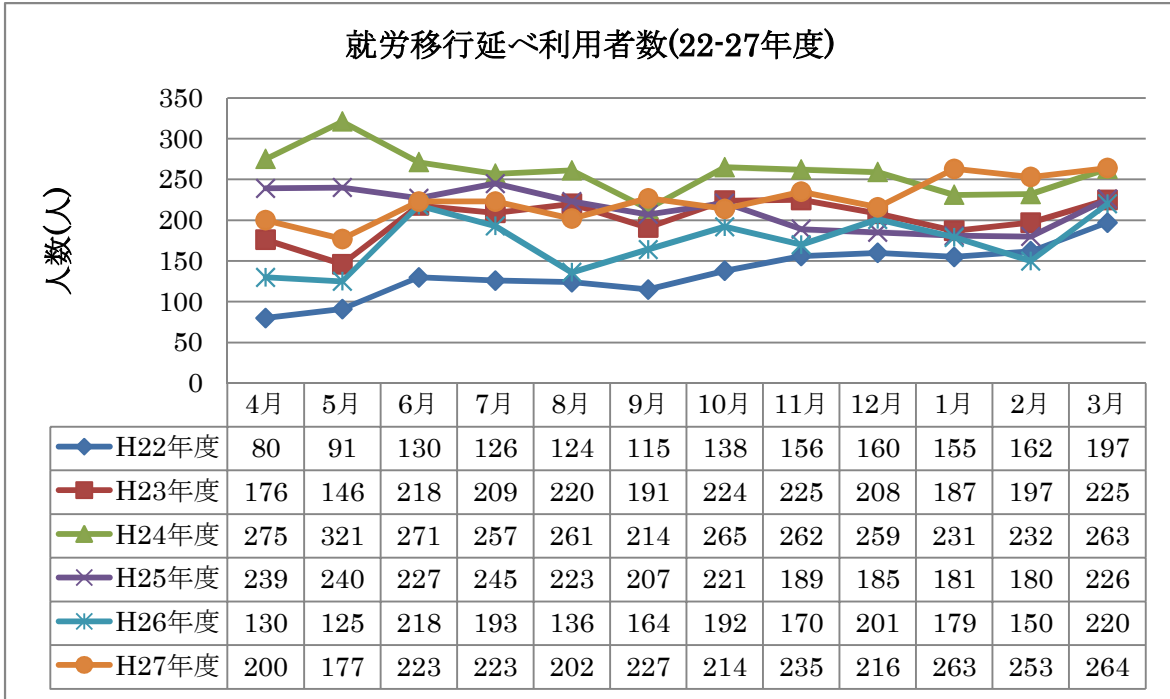
ただし、緊急時の受け入れにつきましては、重度過ぎて受け入れ困難な場合があります。在宅生活を送られる場合、緊急時の事を念頭におき、日頃からいずれかの施設でのショートステイを体験しておくことを提案しています。

平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所  
就労移行支援事業報告

1. 利用者状況

(1) 延べ利用者数

グラフ①



(2) 新規利用者 8 名の概要 (就労アセスメント利用者は除く)

1. 転機元

表①

特別支援学校		
ハビリ	B 型	3
	自立訓練	4
企業		
自宅		1
計		8

2. 障害種別

表②

身体障害	4
知的障害	
精神障害(高次脳含む)	4
広汎性発達障害	
計	8

3. 年齢別

表③

10 代	
20 代	
30 代	3
40 代	4
50 代	1
60 代	
計	8

4. 利用形態別

表④

通所	自宅	8
	ハビリホーム	
入所(ハビリ)		
計		8

(3) 終了者 7 名の状況

表⑤

退所日	就職先	職 種	利用期間
平成27年 8月 7日	株式会社 栄光工業	鉄鋼業	10ヶ月
平成27年 8月 8日	虹の夢(B型)	介護補助等	1年5ヶ月

平成27年 9月30日	株式会社 オフィスコーポレーション	事務機メンテナンス	1年7ヶ月
平成27年11月26日	高知県庁(高知土木課):復職	事務	9ヶ月
平成28年 3月 9日	株式会社 エームサービス	調理補助	7ヶ月
平成28年 3月24日	いの町役場(健康づくり課)	事務	1年6ヶ月
平成28年 3月31日	高知西病院(健康管理センター)	事務	3ヶ月

(4)就労アセスメント

表⑥

実施期間	所 属	就労先
平成27年 7月14日～平成27年 7月23日	生活訓練	B型(他施設)
平成27年 8月 4日～平成27年 8月20日	機能訓練	B型(ハビリ)
平成27年 9月 2日～平成27年 9月18日	機能訓練	B型(他施設)
平成27年11月 2日～平成27年11月24日	高知大学付属養護学校	在学中
平成27年11月 2日～平成27年11月26日	高知大学付属養護学校	在学中
平成28年 1月 4日～平成28年 1月22日	生活訓練	B型(他施設)
平成28年 1月25日～平成28年 2月12日	生活訓練	B型(ハビリ)
平成28年 3月22日～現在実施中	機能訓練	

平成 27 年度から開始された就労アセスメントは、アセスメント期間等に市町村格差があります。当センターとしましては、最低 2 週間をアセスメント期間としています。成人の就労移行利用者がいる為、受けることは困難かと考えておりましたが、スムーズにお受けすることができました。

(5)職場定着（平成 27 年度就職者は表⑤を参照）

表⑦

就労期間	就職先	職 種
5年10ヶ月	近森病院	用度
4年	近森病院	画像データ処理
2年10ヶ月	池沢農機商会	営業
2年 7ヶ月	サンシャイン	商品陳列等
2年 3ヶ月	ゲオ四万十店	店内清掃、CD・DVD 返却業務
2年	梶原町役場	事務
1年 2ヶ月	高知中央郵便局	事務

平成 26 年度におきましては 3 名が就職しましたが、表 5 にありますように平成 27 年度は復職者 1 名、他 6 名が就職しました。平成 22 年から就労移行支援事業を開始し、これまでに 26 名の利用者が就職には至りまし

たが、表⑦に示しますように現在7名が定着している状況です。障害者就業・生活支援センター等の関係機関との連携や当センターでの毎月開催のOB会や訪問等を行っています。障害者就労の定着の困難さを痛感します。

## 2. 訓練内容

表⑧

施設内訓練	
作業	耐久性や巧緻性、集中力を身に付け、向上させる事を目的に様々な作業や基礎的学力向上をめざした学習を実施。
座学	履歴書の書き方や電話対応、名刺の渡し方等、社会人として必要となるマナーを身に付けるとともに模擬面接を実施し、就職活動に必要な技能の習得を目指した。
パソコン	実務能力として必要不可欠な入力スピード・正確性の習得を中心にWord・Excelを使用した実務課題や MOS 検定合格に向けての模擬試験の実施。毎月の移行通信の作成を行った。
講演会	関係機関や就労に就いている障害者の方から就労についての講演をして頂いた。
施設内実習	四国管財様、エームサービス様にご協力頂き、実習前訓練を実施。
施設外訓練	
職場実習	具体的な就労イメージを付けるとともに、適応職種・職場を見つける事を目的に実施。主な実習先:接客業、製造業、介護業、清掃業、調理補助等
外出訓練	職場見学やハローワーク訪問等、就職活動に繋がる外出を実施。
トライアル雇用	1名
委託訓練事業	1名

## 3. 職場実習状況

### (1) 企業実習先開拓

表⑨

	22年度		23年度		24年度
1	JA 春野	1	サンリバー四万十	1	アルベータ北本町
2	サニーマート	2	マルナカー一条店	2	(株)フォーティエス
3	四国管財	3	ユニクロ四万十店	3	サンシャインベルティス
4	フタガミ	4	トヨタ四万十店	4	業務用スーパー宮店
5	四国ライフケア虹の里	5	新ロイヤル四万十	5	(有)西村謄写堂
6	マルニ朝倉店	6	シュープラザ四万十店	6	ワープ園芸文化舎
7	せるぼ(A型)	7	フジ四万十店	7	よさこいねっと
8	青柳	8	グラツェミーレ	8	平成福祉専門学校
9	きらり	9	南国病院	9	タムラビジネスソリューション
10	コーケン(A型)	10	細木病院	10	(有)池沢農機商会
11	まるなか土佐店	11	寿工務店	11	高南メディカル
12	かがみの			12	近森病院北館(医師食堂)
13	ダックス(特例子会社)				
14	ヤマサキ				

15	フジグラン				
16	イオン高知				
17	ワークみらい(A型)				
18	サンプラザ				
19	キタムラ				
20	森光石油				
21	ユニクロ土佐道路				
22	近森病院				
	<b>25年度</b>		<b>26年度</b>		<b>27年度</b>
1	サンシャインベルティス	1	アルコデイトレセンター	1	株式会社 栄光工業
2	サンシャインクラージュ	2	ティンカーベル	2	高知県社会福祉協議会
3	サンプラザ 一宮店	3	エームサービス	3	高知土木事務所
4	よさこいネット	4	いずみの病院	4	オフィスコーポレーション
5	ワープ園芸文化舎	5	フードプラン	5	はるの若菜荘
6	フジグラン四万十			6	土佐御苑
7	ゲオ 四万十店			7	みかんの丘(A型)
8	池澤農機商会			8	高知西病院
9	豚太郎 瀬戸店				
10	虹の夢(A型)				

(2)実習先 (順不同)

表⑩

エームサービス	四国管財	高知西病院
株式会社 栄光工業	株式会社 オフィスコーポレーション	ワープ園芸文化舎
高知県社会福祉協議会	若菜荘	土佐御苑
高知土木事務所		
せるぽ(A型)	みかんの丘(A型)	虹の夢(A型)

(3)実習状況 (トライアル雇用、委託訓練事業を含む)

表⑪

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習回数	0	3	2	3	3	5	3	4	5	2	4	5
実習者数	0	3	2	3	3	4	3	4	3	2	4	5
実習企業数	0	3	2	3	3	4	3	4	3	2	4	5
実習延べ日数	0	21	12	27	25	30	24	37	50	40	56	52

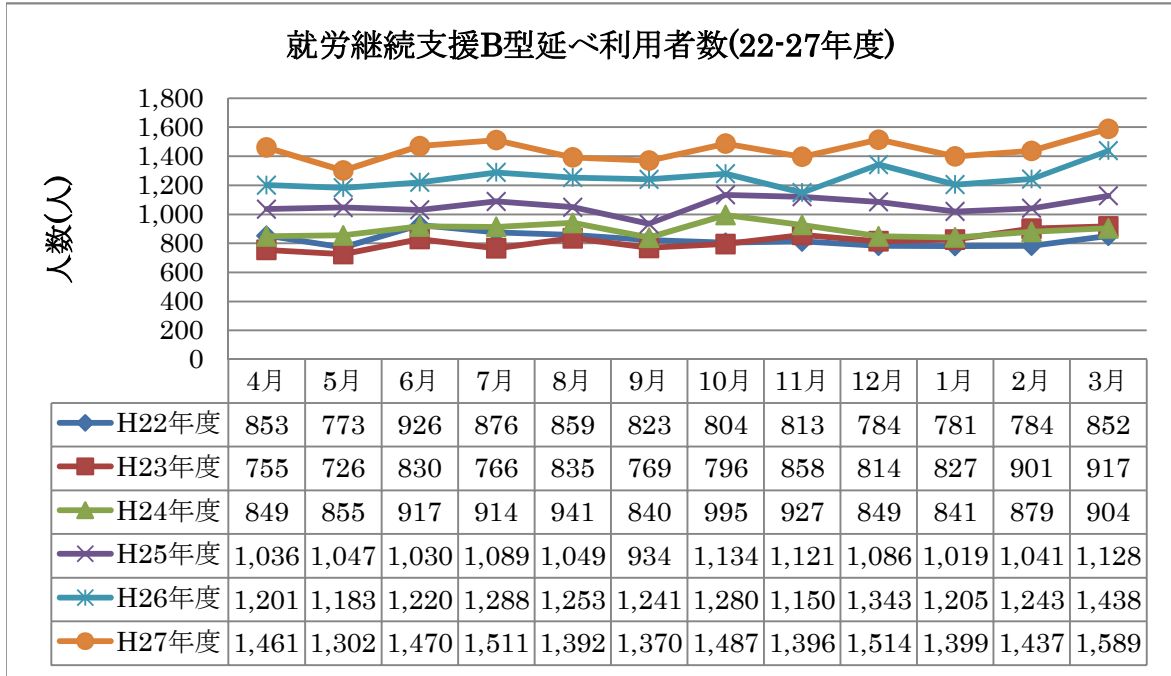
実習先の確保としては、平成27年度は新たに8ヶ所の開拓(表9)ができました。実習依頼に関しては、いずれの企業も快く受け入れていただき、平成27年度の実習先(表10)から5ヶ所への就職に至っています。

平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所  
就労継続支援 B 型事業報告(サテライト含む)

1. 利用者状況

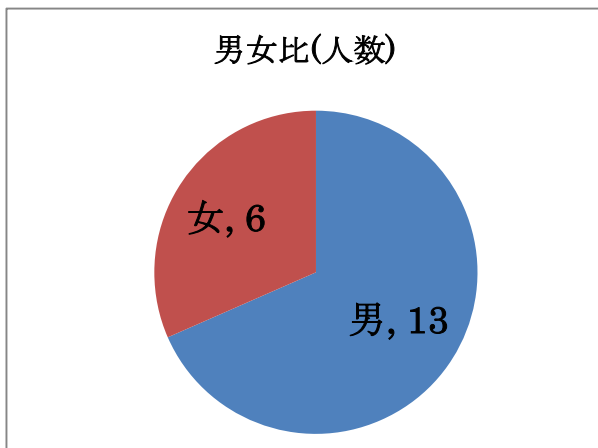
(1) 延べ利用者数

グラフ①

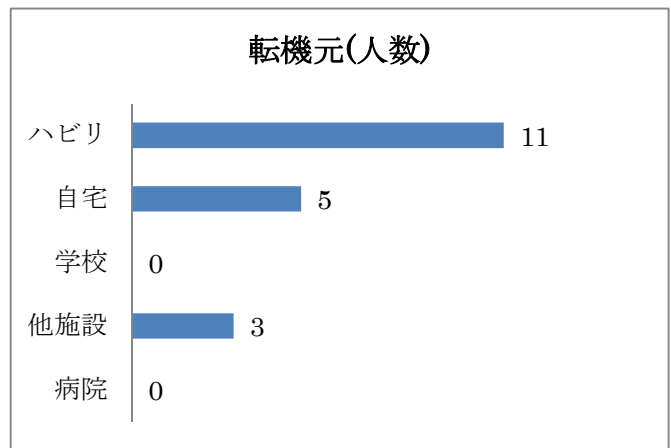


(2) 新規利用者 19 名の概要

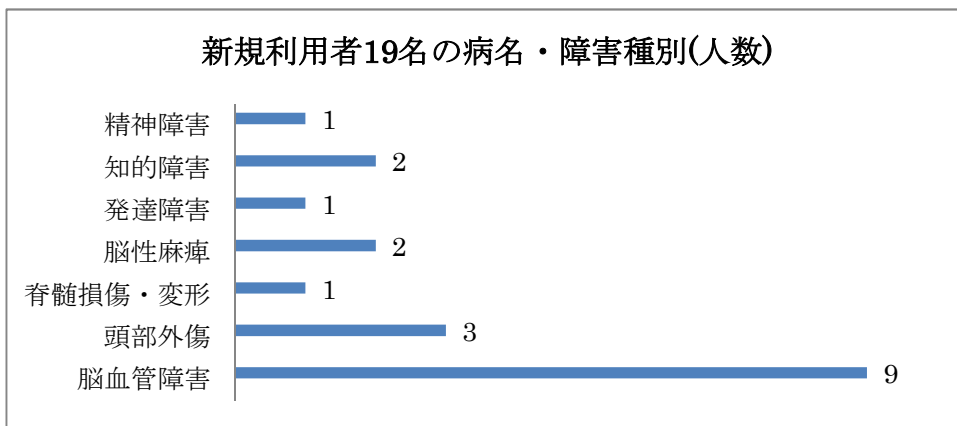
グラフ②



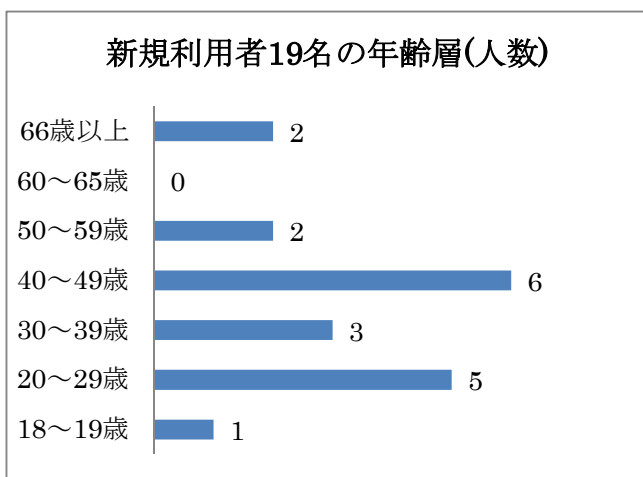
グラフ③



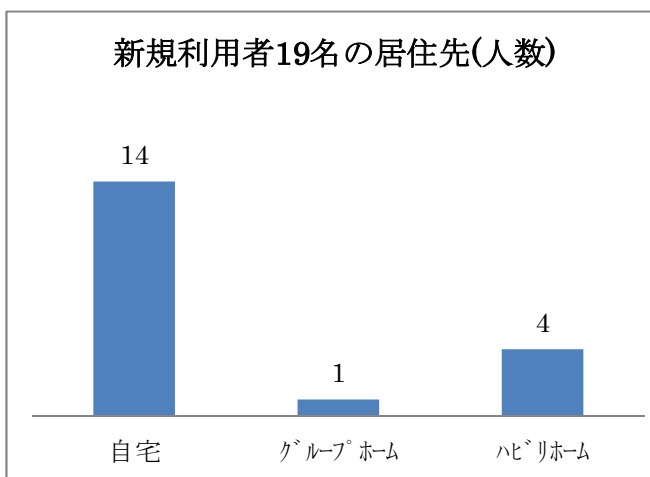
グラフ④



グラフ⑤

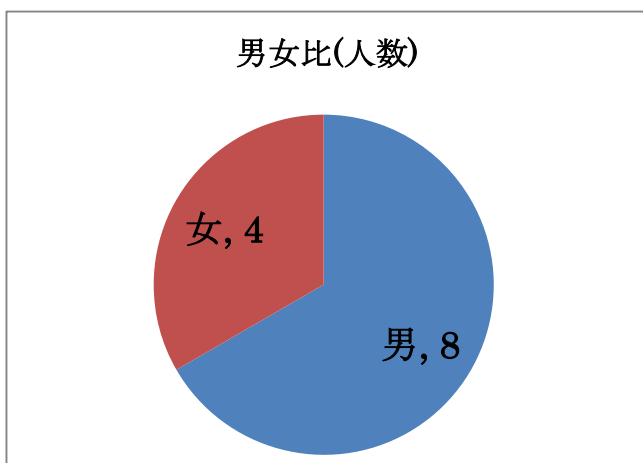


グラフ⑥

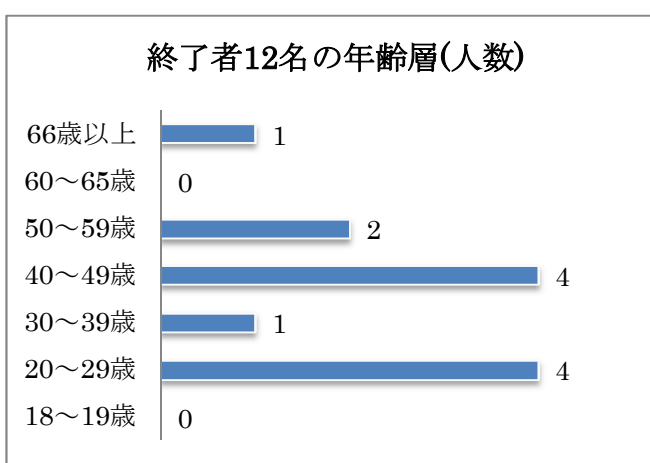


(3) 利用終了者 12 名の概要

グラフ⑦

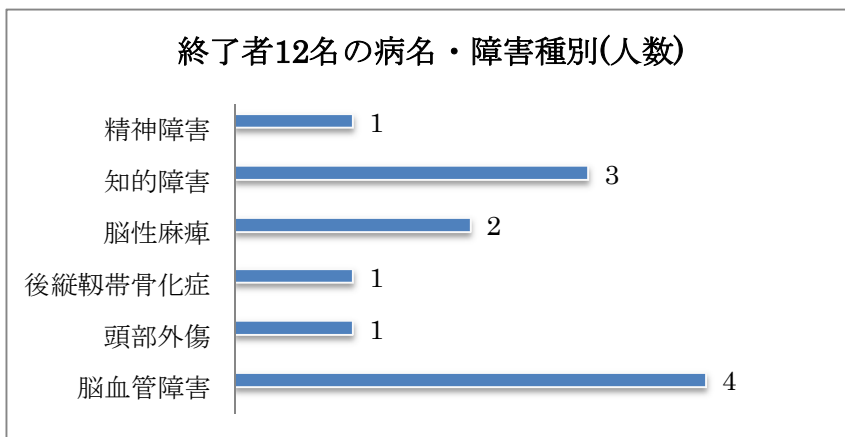


グラフ⑧

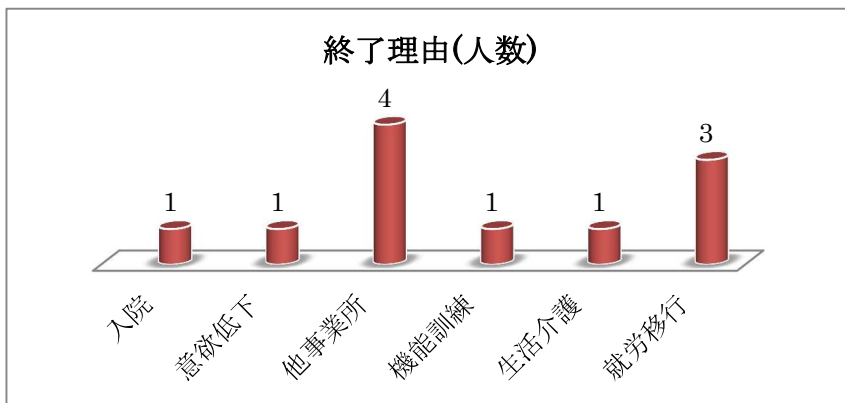




グラフ⑨



グラフ⑩



2. 実習生

表①

性別・学年	学校名・期間	備考
男性・高校3年	若草養護学校・6/1～6/2 農芸科・印刷科・軽作業別館	
女性・高校3年	若草養護学校・6/1～6/5 農芸科・印刷科・軽作業別館	
男性・高校3年	若草養護学校・6/3～6/5 農芸科・印刷科・軽作業別館	
女性・中学2年	若草養護学校・11/10 軽作業本館	
男性・高校2年	高知大付属特別支援学校・11/4～11/27 農芸科・軽作業本館	
女性・高校2年	高知大付属特別支援学校・11/4～11/27 農芸科・軽作業本館	
男性・高校1年	県立聾学校・12/7～12/11 農芸科・軽作業本館	

3. 生産活動

表②

作業科目	作業内容
印刷科	封筒印刷、名刺、広報誌、ハガキ、処方箋等の印刷仕上げまでの作業工程の中で ①制作部…入力、データ作業、画像補正、校正 ②仕上げ…紙折り、検品
クリーニング科	病院スタッフユニフォーム洗濯、シーツ類洗濯、高知ハビリテーリングセンタースタッフユニフォーム、利用者私物洗濯、シーツ交換
軽作業科	脂取り紙の加工作業、DM袋入れ作業、封筒三つ折り作業 箱製作(手織り)、ティッシュ詰め、耳つぼジュエリー
農芸科	畑作業（土作り、草引き、種まき、野菜の洗い、出荷準備、配達） ナス詰め込み作業
パン工房科	パンの製造、販売
アルベータ北本町	洗車、軽作業（防災毛布、碁石茶、餌木製作）

4. 取引先リスト（個人取引除く）

表③

科名	業者名
印刷科	・永井病院・県立障害者スポーツセンター ・日本珊瑚協会 ・宝樹 ・聖園ベビーホーム ・高知県（障害保健福祉課） ・はるの森澤クリニック ・青い空 ・ティー・エス・エー企画 ・あじさい園 ・聖園天使園 ・木内工芸 ・(有)タカハシ ・はるの若菜荘 ・前川珊瑚工房 ・高知県珊瑚協会 ・ヘルパーステーションえのくち ・高知高齢、障害者雇用支援センター ・社会医療法人近森会 ・高知職業訓練支援センター ・日高村役場 ・高知労働局
クリーニング科	・社会医療法人近森会 ・ハビリ ・はるのハビリホーム ・高知高齢・障害者雇用支援センター ・高知県立盲学校 ・日本政策金融公庫
軽作業科 (本館) (箱製作)	・富士紙化学(株) ・(株)エヌ・シー・ビー ・こうち生活協同組合 ・和光製紙(株) ・こだかさ更生センター ・桂 ・福辰 ・吉永 ・土佐蒲鉾 ・高知大丸 ・(株)満天の星・(株)サヌキ印刷 ・池一菜果園 ・(株)浜幸 ・(有)クラフトハート
農芸科	・エームサービス(株) ・近森産業 ・社会医療法人近森会 ・(株)グッドワン ・(株)日清医療食品 ・はるの若菜荘 ・たていし(弁当屋) ・(有)五藤青果
パン工房科	・聖園天使園 ・永井病院 ・社会医療法人近森会 ・ウェーブ ・ハビリ ・平成福祉専門学校 ・ポリテクセンター高知 ・U プロジェクト ・エームサービス(株)
アルベータ北本町	・社会医療法人近森会 ・ハビリ ・大豊町

平成 27 年度は、利用登録者数、延べ利用者数ともに過去最高の数値となりました。利用者数が増えたことにより、土曜日開所を定着させ、利用日の調整が必要となりました。

## ■印刷科

最終的な粗利益が昨年度比で約 116 万増という数字からも恵まれた一年だったと言えます。セミナーの冊子やそれに付随するバックの作成等、大きなイベントに関わる仕事ができただけでなく、利用者にとっても大きな励みになったのではないかと思います。また、入力作業で印刷科を利用希望されることが多いのですが、スペースや作業内容から考えますと受け入れ最大数に達してきました。

## ■クリーニング科

新規業務として、高知ハビリテーリングセンターのユニフォームが毎日の作業となりました。祝日が月・水・金の場合は開所としましたが、利用者はそのペースに慣れてきました。

## ■軽作業科(本館・箱折り)

流れ作業の中で、利用者が主体的に作業を行えました。新規作業として耳つぼジュエリー、木工詰め込み、城西館プラスチックスプーン詰め込み作業等、利用者のできる作業の確保ができました。

## ■農芸科

平成 26 年度からの「なすの袋詰め」作業は、農芸科利用者だけでは人手不足となり、他科の利用者も協同で行っています。大量の出荷は、作業の成果が見え利用者の達成感に繋がっています。

## ■パン工房科

パン販売先の見直しを行い、新たな販売先を確保しました。特に、近森病院の朝食パン（毎日 100 食）の製造、搬入させていただくことになったことは、利用者のモチベーションアップに繋がったように思います。

## ■アルバーテ北本町

駐車場管理は平成 27 年 12 月 1 日よりコインパーキングから近森病院の第 8 パーキングとなりました。洗車は発注がやや減りましたが、多種にわたる軽作業を行うことで生産活動はできています。また、利用者が増えた為、1F の作業スペースを広げました。

5. 作業工賃

平成 27 年度の工賃総支給額

表④

月	利用者数	総支給額
4 月	78 名	1,157,780
5 月	78 名	1,025,880
6 月	78 名	1,173,980
7 月	77 名	1,191,640
8 月	80 名	1,102,800
9 月	80 名	1,083,780
10 月	80 名	1,213,840
11 月	81 名	1,145,520
12 月	86 名	2,395,120
1 月	83 名	1,153,260
2 月	84 名	1,157,720
3 月	84 名	1,297,560
総数	969 名	15,098,880

平均工賃額 15,581 円

6. 平成 27 年度収支実績

表⑤

支出		収入	
延べ利用者数	17,325 名 (昨年度比 2,269 名増)	作業収入	44,050,708 円 (昨年度比 8,927,293 円増)
支払い対象者数	1,026 名 (昨年度比 186 名増)		
延べ利用時間	93,696 時間 (昨年度比 15,404 時間)		
工賃総額	15,068,880 円 (昨年度比 1,589,840 円増)		
平均工賃月額	15,582 円 (昨年度比 -500 円)		

# 高知ハビリテーリングセンター就労継続支援B型規程

## 1. 工賃

### ①支払基準

工賃の支払額は、当施設の工賃評価に基づき決定し月額にて支払う。

### ②工賃の支払日

工賃の計算期間は、毎月1日からその月の末日までの1ヶ月とし、支払日は翌月の10日とする。但し、支払日が休日及び金融機関の休業日に当たるときは、その前日を支払日とする。また年末年始、ゴールデンウィーク時には金融関係の都合により、銀行振り込みの方も現金手渡しになる可能性がある。

但し、やむを得ない理由により支払日が10日を超える場合がある。

### ③工賃格付表

工賃の格付は、工賃格付表により決定する。各科支援員は年2回評価を行い、必要に応じて格付の昇格を各科支援員、就労支援部主任、就労支援部サービス管理責任者、センター長補佐、センター長と工賃評価表を用い検討を行い、工賃の昇給に反映させるものとする。

### ④帳簿類

工賃の支払額の決定、支払の為の資料として、次の帳簿を備える。

工賃評価表

工賃実績表

作業日報、実績記録票

### ⑤作業日報、実績記録票

作業時間、食事、送迎、欠席時加算は各科支援員がパソコンに記録する。電子カルテに作業時間、作業内容、欠席時加算がある場合はその支援内容等を記載する。

センターの健康診断や施設行事等の時間については出席扱いとする。

所属科決定までは、無所属科担当支援員が記載をする。

## 2. 食事

①希望者については食事を提供する。(利用者により負担額は異なる)

②私用等により半日利用の場合については食事の提供は行わない。

ただし、センター長が認めた場合についてはこの限りではない。

③利用者の欠席等の食事キャンセルは当日の8:30までとし、連絡が遅れた場合にはキャンセル料が発生する。(キャンセル料500円)但し、体調不良による早退の場合は、キャンセル料は発生しない。

④食事提供加算の算定要件については別紙参照とする。

### 3. 通所者の送迎

送迎にかかる費用は加算のみとする。(実費負担はなし)

### 4. 実習・体験

- ①実習生や体験者、同伴者に昼食の希望があれば食事を提供することができる。  
料金は1食 500 円を実習終了日にまとめて支払って頂く。
- ②荷物は必要に応じて更衣室を提供する。貴重品は自己管理として頂く。
- ③実習風景のビデオやカメラによる撮影希望がある場合は、目的を確認後センター長、  
利用者に確認を行い、希望に応じるものとする。
- ④実習生や体験者の情報は部会等で各科支援員に伝える。

### 5. ショートステイ中、はるのハビリホームお試しショート中の就労継続支援B型利用

ショートステイ中、はるのハビリホームお試しショート中であっても、希望者は  
就労継続支援B型の利用ができる。(受給者証が発行されている方に限る)

### 6. その他

- ①新規利用者に対しては、就労支援部主任、就労支援部サービス管理責任者、  
所属科支援員のいずれかの者がオリエンテーションを行う。
- ②新規利用者は当施設のルールを理解を促していく。

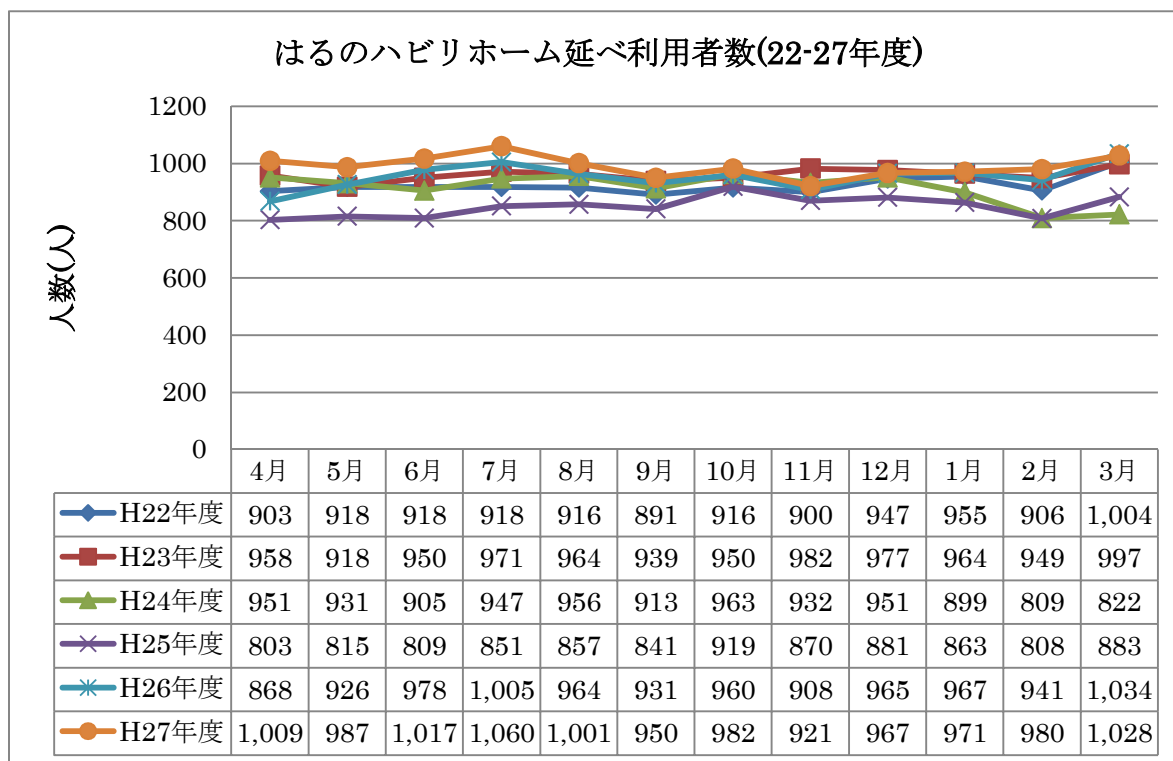
平成 23 年 4月1日 作成  
平成 23 年 3月1日 訂正  
平成 23 年10月1日 訂正  
平成 24 年 4月 1日 訂正  
平成 25 年 4月 1日 訂正  
平成 27 年 1月 1日 訂正  
平成 27 年 4月 1日 訂正  
平成 28 年 4月 1日 訂正

## 平成 27 年度 はるのハビリホーム 共同生活援助 (GH) 事業報告

### 1. 利用者状況

#### (1) 延べ利用者数

##### グラフ①



#### (2) 利用者概要

##### ① 新規入居利用者 3 名の入居前居所

表①

事業名	人数
ハビリ本館	2
病院	0
自宅	1
合計	3

##### ② 終了者 5 名の復帰先の内訳

表②

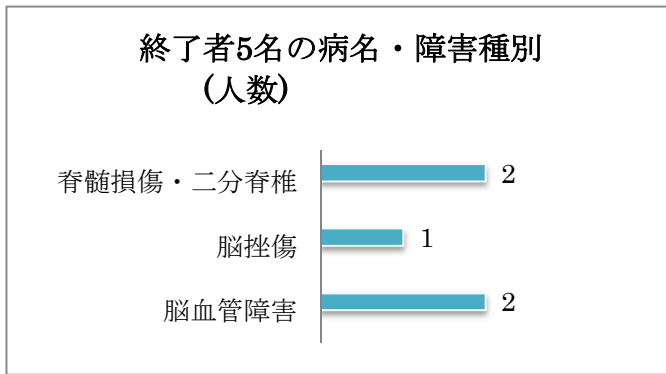
復帰先	人数
自宅及びアパート	2
高齢者施設	0
障害者支援施設	0
病院	0
県営住宅	2
その他	1
合計	5

ハビリ施設入所から新規利用者 2 名は自宅がなく、若年でもあり、生産活動としては B 型が適正だという遠縁者の判断もあり利用に至りました。また、1 名につきましては、家族の高齢化に伴い家庭状況の問題から行政支援者からのご相談によるものです。

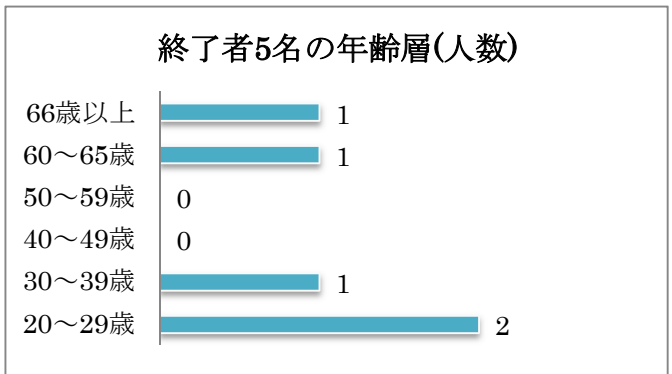
また、終了者では、68 歳の利用者 1 名が準備を整えての退居となり、入居時点より公営住宅を検討されていた方が抽選に当たり退居されました。

平成 28 年 3 月 31 日現在で、平均障害支援区分は 2.6、平均年齢は 48 歳でした。

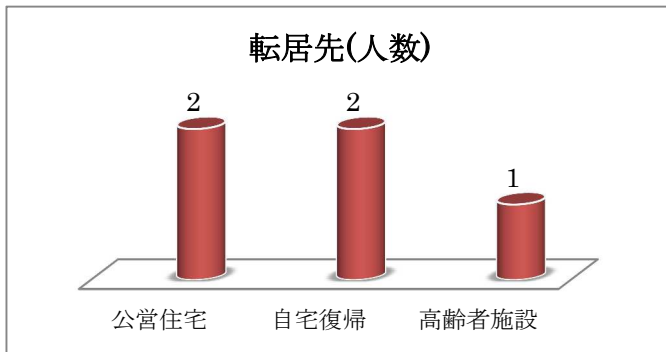
グラフ②



グラフ③



グラフ④



はるのハビリホームが空床になったタイミングで体験利用が行われますが、平成27年度は5名が体験され、2名が年度内に入居しました。特に、児童養護施設やご家族と生活していた方には、グループホームにおける体験があることで一人暮らしのイメージが描きやすくなるものと考えます。

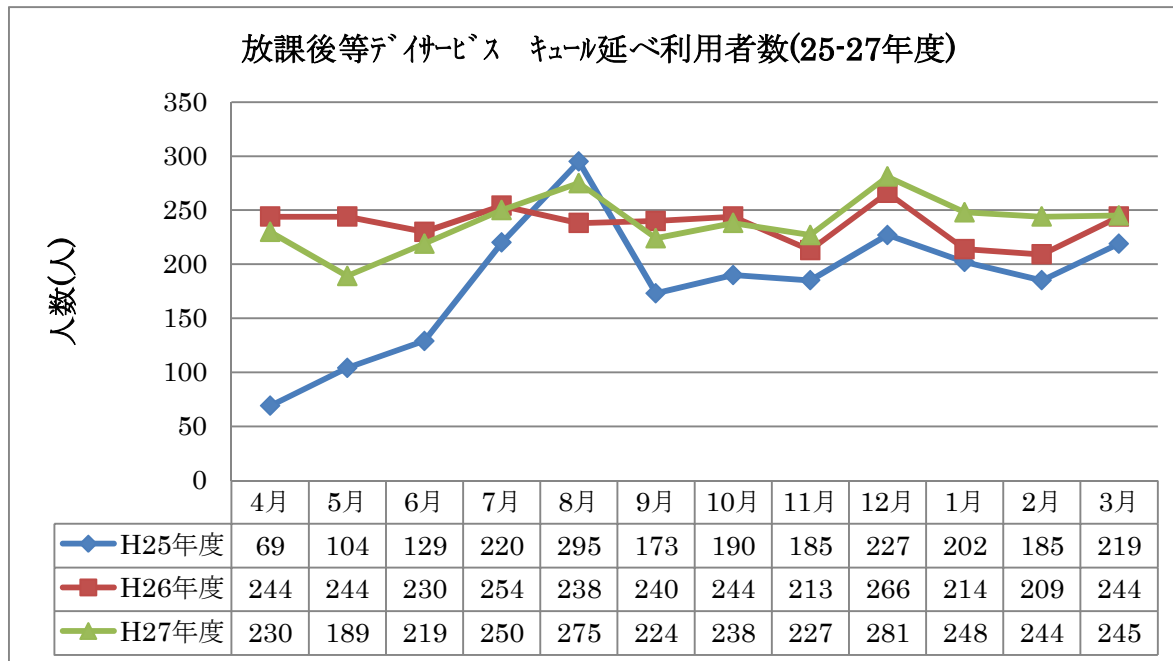


平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター放課後等デイサービス  
「キュール」事業報告

1. 利用児状況

(1) 延べ利用児数

グラフ①



(2) 利用児概要

①新規利用児数 ②終了利用児数 ③総登録者数

表①

男	5
女	3
合計	8

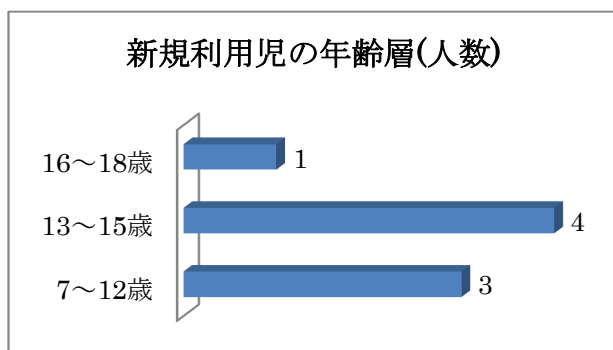
表②

男	2
女	4
合計	6

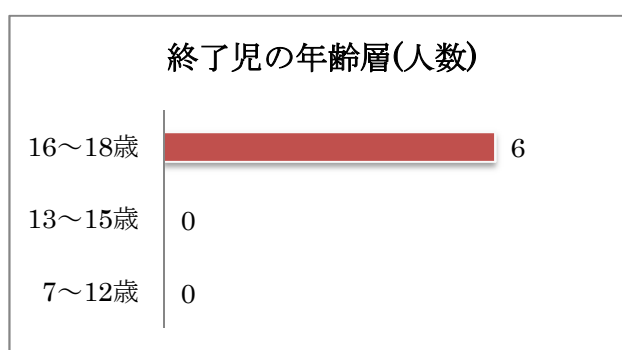
表③

男	48
女	26
合計	74

グラフ②



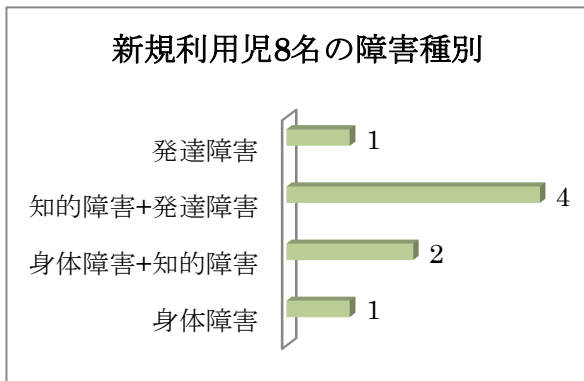
グラフ③



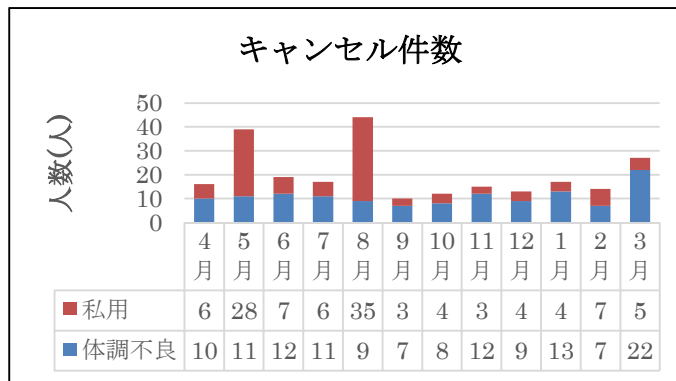
平成 27 年度の 5 名退所(表 2)は、いずれも高等部卒業に伴う終了でした。その終了利用児から、当センターの障害者支援施設の自立訓練に 1 名、短期入所(ショートステイ)は 4 名がこれまでも利用しており引き続き利用希望です。

平成 27 年 3 月 31 日現在の総登録者数は、74 名(表 3)、平均年齢 12 歳となりました。

グラフ④



グラフ⑤



一日平均利用児数は定員 10 名に対しての利用最大数 11～12 名でお受け入れをしていますが、利用児の約 8 割は発達障害児で小学生が多く、身辺動作や管理は未自立で個別支援が必要な利用児が多くなりました。視覚優位の利用児には個別スケジュールを準備し、予定を確認して活動に参加出来るよう支援を行っています。短時間ではありますが、個別課題(プリント等)を実施しました。

また、体調不良や家族の都合により当日キャンセルもありました(グラフ⑤)。キャンセルが事前にかかる場合は、お断りをしていた児童が利用できるよう早めの連絡をいただくことをお願いしています。

2. 支援プログラム

表④

	プログラム(遊び)	内容
1	室内遊び	積み木、プラレール、ゲーム(Wii)、テレビ鑑賞、音楽遊び 絵本(読み聞かせ)、わらべうた遊び 音楽療法(2回/月)――講師委託
2	室内レク	風船バレー、背中文字当て遊び、トランプ、バランスボール 室内ドッジボール
3	野外活動	散歩、サッカー、長縄遊び、マラソン、リレー遊び、野球 ドッジボール、キャッチボール、鬼ごっこ、相撲、かくれんぼ
4	学習支援	宿題、課題プリント
5	スポーツセンター	トランポリン、ロッククライミング、運動会、プール、自転車
6	長期休暇のイベント	ドライブ、おやつ作り、社会科見学、スタンプラリー
7	その他(外部施設利用)	ボーリング、カラオケ、プール

長期休暇中の 8 月夏休み、12 月冬休みは最も利用者数が多くなりますので、祝日・長期休暇中の非常勤職員の加配だけではなく、ボランティアも募っています。そして、平成 27 年度は、長期休暇中ならではの取組みとして、警察本部や消防署、龍馬空港やストロベリーフィールズ(A型)等への社会科見学や、施設内でのおやつ作りや流しそうめん、スイカ割りなど食と体験を合わせたイベントやスタンプラリーを行いました(表④)。このような取組みは、親子ともに大好評でした。

3. 保護者との連携、関わり

- 連絡ノート―――毎日の報告、伝達
- キュール通信―――毎月の発行(児童のキュールでの様子、お知らせ等)
- 茶話会―――7 日間の開催(担当職員、管理栄養士、センター長)

31 家族の参加あり

平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター  
 特定・一般・障害児相談支援事業報告

《特定相談支援事業所》

1. 利用者推移（平成 28 年 3 月末時点）

表①

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
新規	3	2	2	0	4	3	2	2	2	1	5	1
終了		4	1	5	4	3	3	2	2	1		4
累計	137	135	136	131	131	131	130	130	130	130	135	132
更新・変更	9	11	9	16	22	11	4	8	13	15	11	18
モニタリング	12	11	21	16	10	30	25	18	12	12	20	12

2. 市町村別 契約利用者数（平成 28 年 3 月末時点）

表②

市町村	高知市	南国市	香美市	香南市	安芸市	室戸市	土佐清水市	土佐市	中土佐町	佐川町	いの町	田野町	大豊町	安田町	津野町	仁淀川町	黒潮町	香芝市
人数	85	13	3	4	3	1	2	2	2	2	7	1	2	1	1	1	1	1

3. 特定相談支援事業所等利用状況（平成 28 年 3 月末時点）

表③

利用サービス	登録者数	相談支援事業所		未計画者
		ハビリテーリングセンター	他事業所	
機能訓練	26	20	6	0
生活訓練	12	8	4	0
生活介護	14	10	4	0
就労移行支援	12	12	0	0
就労継続支援 B 型	94	64	28	2
短期入所		8	—	—
ハビリ以外のサービス		10	—	—

平成 27 年度より、障害福祉サービス利用時のサービス等利用計画義務付けが完全開始となりました。申請手順の変更や、平成 28 年 1 月からはマイナンバー制度の導入等もあり、定期的な連絡会や行政からの通知等を通して、その都度対応を求められる 1 年でした。

当センター内においては、新規相談やサービス変更等の情報を相談支援部やサービス管理者等から早期に伝達できますので、利用者のサービス利用に向けて、滞り無く、手続きを進める事が出来ていました。

相談支援事業所連絡会への参加や既にサービス提供を依頼している事業所からの紹介等により、関係機関を拡大する事が出来ていたように思います。

《障害児相談支援事業所》

1. 利用者推移（平成 28 年 3 月末時点）

表④

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	3	4	2		3	1	2	2		3	2	1
終了					1	2						
累計	22	26	28		30	29	31	33		35	36	37
更新・変更	1				1	4	2	2		1	5	1
モニタリング	2			2	1	4		1	1	2	5	

2. 市町村別 契約利用者数（平成 28 年 3 月末時点）

表⑤

市町村	高知市	南国市	香美市	香南市	安芸市	室戸市	土佐清水市	土佐市	中土佐町	佐川町	いの町	田野町	大豊町	安田町	津野町	仁淀川町	黒潮町	香芝市
人数	34							3										

平成 27 年度からは、障害者同様にサービスを利用する児童は障害児支援利用計画が必要となり、昨年の同時期から比べ 15 名増加しました。また、高等部卒業児童が 4 名おり、事業所への情報提供、特定相談支援事業所に対しての引き継ぎを行っています。

昨今、放課後等デイサービスについては事業所が増え、内容についても事業所ごとに特長があります。事業所側の情報と保護者のニーズをマッチングできるように調整していくことが重要だと捉えています。

契約数が伸びないのは保護者の動きが遅いのかとも考えておりましたが、母親によるセルフプランが多いという現状もありました。

《一般相談支援事業所》

表⑥

地域移行支援	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	4	5	7	6	5	4	2	2	3	3	2	2	45
終了者	0	0	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	8

2. 地域定着支援

表⑦

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	6	5	3	3	2	1	1	1	1	0	0	0	23
終了者	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	6

地域移行支援では、相談支援部業務と一般相談支援事業者としての業務が混同することはなかったように思います。地域定着支援については、月に 1 回以上自宅訪問を行い、地域生活の状況確認を行うことができましたが、後半には利用者数が減少してしまいました。

H27 年度 高次脳機能障害支援拠点委託事業  
「高次脳機能障害相談支援センター」事業報告

1. 活動報告

① 【活動一覧】 ※家族教室については②参照

表①

5月	10日 12日 30日	2015年度高次脳機能障害実践的アプローチ講習会 第一回高次脳機能障害支援委員会 高知県高次脳機能障害研修会Ⅰ(基礎編)
6月	24日	第一回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議及び 高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会
7月	4日	支援拠点職員研修会
8月	8日	環瀬戸内海ネットワーク会議及び 平成27年度愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会
9月	9日10日 26日	神経心理学会学術総会 高知県高次脳機能障害研修会Ⅱ(基礎編)
11月	7日8日 12日13日 20日21日	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 身体障害者リハビリテーション研究集会2015 NPO法人脳外傷友の会 第15回全国大会 2015 in 東京
12月	10日11日 15日 20日	高次脳機能障害学会学術総会 高次脳機能障害者支援地域研修会(安芸ブロック) 高次脳機能障害者支援地域研修会(高知ブロック)
1月	19日 27日 30日	高次脳機能障害者支援地域研修会(中央西ブロック) 高次脳機能障害者支援地域研修会(中央東ブロック) H27 四国ブロック高次脳機能障害連絡協議会
2月	6日 16日 19日	高次脳機能障害者支援地域研修会(幡多ブロック) 高次脳機能障害者支援地域研修会(須崎ブロック) 第二回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議及び 高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会
3月	12日 17日 25日	高次脳機能障害講習会—子どもたちの高次脳機能障害— 第二回高次脳機能障害支援委員会開催 障害者支援施設とさ 施設内研修会

② 【家族教室】

○土曜日コース

表②

日付	回数	参加者
5月16日	第1回目	家族:8人 支援員:1人
6月20日	第2回目	家族:7人 支援員:1人 関係者:1人
7月11日	第3回目	家族:7人 支援員:1人

8月1日	第4回目	家族:8人 支援員:1人
9月19日	第5回目	家族:8人 支援員:1人 関係者:1人
10月31日	第6回目	家族:5人 支援員:1人 関係者:1人
11月28日	第7回目	家族:5人 支援員:1人 関係者:1人
12月19日	第8回目	家族:4人 支援員:1人
1月16日	第9回目	家族:4人 支援員:1人 関係者:1人
2月20日	第10回目	家族:7人 支援員:1人 関係者:1人

○日曜日コース

表③

日付	回数	参加者
6月28日	第1回目	家族:6人 支援員:1人
7月26日	第2回目	家族:6人 支援員:1人
8月23日	第3回目	家族:5人 支援員:1人
9月27日	第4回目	家族:3人 支援員:1人
10月25日	第5回目	家族:5人 支援員:1人
11月29日	第6回目	家族:5人 支援員:1人
12月20日	第7回目	家族:4人 支援員:1人
1月24日	第8回目	家族:6人 支援員:1人
2月14日	第9回目	家族:3人 支援員:1人
3月13日	第10回目	家族:5人 支援員:1人

※1: 各教室に2人ずつ当日参加が難しい為、資料のみ提供を受けている家族あり

※2: 欠席家族に対しては、翌月に資料提供を行った

## 2. 相談業務(のべ相談件数)

○相談支援コーディネーター

表④

	面接	電話	訪問	カンファレンス	合計
4月	0件	9件	0件	0件	9件
5月	2件	2件	0件	0件	4件
6月	2件	7件	0件	1件	10件
7月	1件	4件	0件	0件	5件
8月	2件	2件	0件	0件	4件
9月	3件	3件	0件	0件	6件
10月	3件	7件	0件	0件	10件
11月	2件	11件	1件	0件	14件
12月	0件	8件	0件	0件	8件
1月	0件	3件	0件	0件	3件
2月	1件	1件	0件	0件	2件
3月	0件	0件	0件	0件	0件
合計	16件	57件	1件	1件	75件

○上記のべ相談件数の内、コーディネーターが  
情報提供や医療機関への紹介等支援を行った件数

表⑤

4月	4件
5月	2件
6月	9件
7月	2件
8月	0件
9月	3件
10月	8件
11月	10件
12月	7件
1月	2件
2月	0件
3月	0件
合計	47件

○上記の件数の内、新規相談件数（H28.3.31現在）

表⑥

4月	6件
5月	4件
6月	2件
7月	2件
8月	1件
9月	1件
10月	3件
11月	2件
12月	2件
1月	2件
2月	1件
3月	0件
合計	26件

○医療相談(心理士)

表⑦

月	電話	面接	同行・訪問	検査等	カンファレンス等	合計	うち 新規
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	2	2	0	0	4	3
7月	0	1	0	0	0	1	0
8月	3	2	0	0	0	5	1
9月	1	0	0	0	1	2	1
10月	2	0	0	0	1	3	0
11月	6	1	0	0	1	8	2
12月	8	0	0	0	0	8	2
1月	8	0	0	0	1	9	1
2月	4	0	0	0	0	4	2
3月	9	0	0	0	0	9	0
合計	41	6	2	0	4	53	12

### 3. 研修会

#### 【施設内研修】

- ・支援拠点職員研修会中島教室①

開催日時：平成27年7月4日(土) 9:00~12:00

開催場所：高知ハビリテーリングセンター

講師：帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子先生

当日参加者数：35名(高知ハビリテーリングセンター職員)

【施設外研修】

- ・高次脳機能障害リハビリテーション講習会 2015 高知

開催日時：平成 27 年 11 月 7 日(土)13：00～16：30 (高知県立大学 池キャンパス 大講義室)

平成 27 年 11 月 8 日(日)13：00～16：30 (田野町総合文化施設ふれあいセンター)

当日参加者数：212名

内 容：1)開会挨拶

日本損保協会(代理：実行委員長)

- 2)基調講演『高次脳機能障害とは』

宮本 寛 実行委員長

- 3)当事者家族会

NPO 脳外傷友の会高知 青い空 理事長 片岡 保憲 氏

- 4)支援者パネルディスカッション1

『リハビリ・生活・就労の目線から』

高知市：米村 琴美(リハビリテーション病院すこやかな杜/代理：石元美知子)

斎藤 一夫(特定相談支援事業所 すずめ相談支援センター)

澁谷 文香(就労サポートセンターかみまち センター長)

田野町：須藤 史代(相談支援事業所ちゅうげい 相談支援専門員・作業療法士)

西岡 律(中芸広域連合地域包括支援センター 保健師)

一圓 智加(南国中央病院 作業療法士)

- 5)当事者パネルディスカッション2

『当事者・家族の“今困っている事”』

- 6)質疑応答

- 7)閉会

当日参加者数

表⑧

	高知市会場	田野町会場	合計
	平成 27 年 11 月 7 日 13:00～16:30	平成 27 年 11 月 8 日 13:00～16:30	
	高知県立大学 池キャンパス	田野町総合文化施設 ふれあいセンター	
介護支援専門員	14	4	18
相談支援専門員	3	3	6
行政	1	0	1
理学療法士	9	2	11
作業療法士	11	1	12
言語聴覚士	7	3	10
保健師	1	2	3
介護職	8	2	10
看護師	12	1	13



サービス管理責任者	6	2	8
医師	0	1	1
ソーシャルワーカー	12	3	15
支援員	1	2	3
心理士	2	1	3
事務職	3	1	4
教員	1	0	1
弁護士	0	0	0
当事者	10	0	10
当事者家族	13	0	13
その他	44	26	70
合計	158	54	212

※後遺障害者 16人（うち自動車事故被害者 2人）  
 後遺障害者家族 23人（うち自動車事故被害者家族 9人）  
 医療関係者 101人（福祉関係者含む）  
 その他 72人

・高知県高次脳機能障害研修会 I（基礎編）

開催日時：平成27年5月30日（土）10：00～15：00

開催場所：高知ハビリテーリングセンター

講師：帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子先生

当日参加者数：39名

内 容：1)開会挨拶

2 高次脳機能障害の基礎知識

3)注意障害の理解

4)記憶障害の理解

5)自分の注意力、記憶力をチェックしよう

6)高次脳機能障害を他者に説明してみよう

7)閉会

当日参加者数

表⑨

		合計
介護支援専門員	5	5
相談支援専門員	5	5
介護職	9	9
看護師	5	5
サービス管理責任者	3	3
ソーシャルワーカー	4	4
支援員	3	3
その他	5	5
合計	39	39

・高知県高次脳機能障害研修会Ⅱ(基礎編)

開催日時：平成27年9月26日(土)10:00～15:00

開催場所：高知ハビリテーリングセンター

講師：帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子先生

当日参加者数：36名

内容：1)開会挨拶

2)社会的行動障害の理解(メカニズムと対応)

3)遂行機能障害の理解

4)自分の遂行機能力をチェックしてみよう

5)遂行機能障害を他者に説明してみよう

6)事例検討

7)閉会

当日参加者数

表⑩

		合計
介護支援専門員	5	5
相談支援専門員	5	5
介護職	8	8
看護師	5	5
サービス管理責任者	3	3
ソーシャルワーカー	3	3
支援員	3	3
その他	4	4
合計	36	36

・高次脳機能障害講習会—子どもたちの高次脳機能障害—

(支援拠点職員研修中島教室②)

開催日時：平成27年3月12日(土)10:00～14:00

開催場所：高知ハビリテーリングセンター

講師：帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子先生

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会 ハイリハキッズ代表 中村 千穂先生

当日参加者数：89名

内容：1)開会挨拶

『高知県における、これからの小児高次脳機能障害』

2)講演①『小児の高次脳機能障害の理解と対応』

帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授 中島 恵子先生

3)講演②『子どもの高次脳機能障害 小児支援の現状と課題』

高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会 ハイリハキッズ代表 中村 千穂先生

4)質疑応答

5)閉会

当日参加者数

表⑪

		合計
介護支援専門員	2	2
相談支援専門員	4	4
行政	0	0
理学療法士	16	16
作業療法士	7	7
言語聴覚士	2	2
保健師	0	0
介護職	3	3
看護師	5	5
サービス管理責任者	4	4
医師	5	5
ソーシャルワーカー	7	7
支援員	17	17
心理士	4	4
事務職	1	1
教員	0	0
弁護士	0	0
当事者	0	0
当事者家族	4	4
その他	8	8
合計	89	89

【高次脳機能障害者支援地域研修会】

目的：高知県における高次脳機能障害の現状とその障害がある人への理解を深める為に開催する。

(全6回)

内容：1)開会挨拶

2)「高次脳障害のレベルに応じた支援プロセスについて」

講師：南国中央病院 副院長 宮本 寛氏

3)「家族教室について」

講師：高次脳機能障害相談支援センター 心理士 古庄 由利恵

4)「高次脳機能障害者支援資源マップについて」

講師：高知県地域福祉部障害保健福祉課 主査 森光 将志氏

5)事例検討（グループワーク）

6)質疑応答

7)閉会

当日参加者数

表⑫

	安芸	高知	中央西	中央東	幡多	須崎	合計
	平成 27 年 12 月 15 日 19:00～21:00	平成 27 年 12 月 20 日 13:30～15:30	平成 28 年 1 月 19 日 19:00～21:00	平成 28 年 1 月 27 日 19:15～21:15	平成 28 年 2 月 6 日 15:00～17:00	平成 28 年 2 月 16 日 19:00～21:00	
	安芸福祉保健所2階 会議室	総合あんしんセンター 3階中会議室	いの町総合保健福祉 センター 大会議室	南国市保健福祉セン ター多目的ホール	幡多医師会館 大ホール	医療法人南江会 一 陽病院 5階娯楽室	
介護支援専門員	7	5	0	1	6	2	21
相談支援専門員	3	3	0	2	1	2	11
行政	0	2	1	0	2	0	5
理学療法士	2	2	4	3	1	9	21
作業療法士	1	0	2	2	2	6	13
言語聴覚士	0	0	1	0	0	8	9
保健師	3	0	2	6	0	2	13
介護職	0	7	3	2	2	4	18
看護師	2	5	0	4	3	4	18
サービス管理責任者	2	1	0	2	0	0	5
医師	0	0	1	1	0	0	2
ソーシャルワーカー	1	2	1	0	6	0	10
支援員	3	4	1	2	1	2	13
心理士	0	0	0	0	0	0	0
事務職	0	0	0	0	0	0	0
教員	0	0	0	0	0	0	0
弁護士	0	0	1	0	0	1	2
その他	2	3	1	3	0	1	10
合計	26	34	18	28	24	41	171

## 平成 27 年度 高知ハビリテーリングセンター(全体)報告

### 1. 利用者行事(文化・芸術活動、スポーツ活動参加等)

表①

月日	行 事
5 月 14・21 日	自立訓練・生活介護遠足(内原野陶芸館、廓中故郷館)
5 月 17 日	青空げんきフェスタ参加
5 月 31 日	高知県障害者スポーツ大会
7 月 4 日	アビリンピック
7 月 26 日	頭脳スポーツ大会
7 月 28 日	文月祭
8 月 11 日	近森会よさこいチーム踊り観賞
9 月 16 日	障害者雇用合同面接会
9 月 26 日	自治会遠足(芸西村筒井美術館、芸西村文化資料館)
10 月 17 日	ハビリ地域フェスティバル
10 月 18 日	就労移行遠足(牧野植物園、県立美術館)
10 月 25 日	近森保育ソルト園児芋ほり・交流会
11 月 3 日	B 型親睦会(バーベキュー)
11 月 5 日～18 日	施設入所利用者健康診断(近森病院)
11 月 7 日	丑ノ助学園児芋ほり・交流会
11 月 10 日	消防訓練(高知市南消防署南部分署合同訓練)
12 月 22 日	クリスマスお食事会、クリスマスお楽しみ会
12 月 26 日	餅つき
3 月 24 日	消防訓練

### 2. 利用者の健康管理(看護師)

#### ①健康診断実施状況

施設入所者：平成 27 年 11 月 5 日～18 日（5 日間）25 名

\*健康診断項目：胸部 X-P・心電図（40 歳以上）・血液検査・検尿検査・視力検査・聴力検査  
 血圧測定・体重測定・腹囲測定・医師による問診と診察

\*健康診断の結果 Dr の指示により、かかりつけの主治医に情報提供を行ない精査とその後のフォローをお願いするケースもありました。

入所 3 ヶ月以内の利用者：H28 年 1 月 28 日（9 名）

\*健康診断項目：血圧測定・体重測定・腹囲測定・医師の問診と診察

※就労継続 B 型・就労移行の利用者は 27 年度内の健康診断は未実施

②毎日血圧測定に医務室に来られる利用者は 30～70 名、一日平均 45 名

#### ③内服薬医務での管理者

施設入所利用者

\*全面管理：平均 15～17 名

- \*1週間分渡しで管理：平均12～13名
- \*複数科受診後の内服薬セットの必要な方：5～6名

はるのハビリホーム入所者

- \*1週間分渡しで管理：平均5～6名
- \*毎週インスリン注射施行：1名

#### ④処置

- \*気管切開している利用者の処置：1名（自己導尿・吸入・吸引の指導など）
- \*皮膚の観察と軟膏処置

#### ⑤その他

- \*平成27年5月に入所された利用者（ESBL産生菌保菌者）感染症のため平成28年1月に除菌できるまでの間、関係部署の職員は手洗いの徹底とアルコール消毒を行ないました。
- \*救急車要請 6回  
入所利用者 4名（2/6日：頭痛 2/8日：低血糖 2/17日：脳内出血 2/24日痙攣発作）  
はるのハビリホーム 1名 2回（6月・2月：痙攣発作）

### 3. 利用者の栄養管理(管理栄養士)

施設内で提供する食事について、個人の身体状況に合わせた食事量や食事形態を検討し提供しました。メニューについては、給食委託会社と連携し、食事アンケートの結果を基に利用者の意向を反映しつつ、季節感のある食事メニューを作成し、イベント企画と合わせて食事満足度を上げる取り組みを考え実践しました。（別紙参照）

また、転機先に合わせて、栄養に関する情報提供（栄養量や間食の上手な摂り方等）を行うと共に、実際に調理訓練を通して栄養バランスの取れたメニューの作成や調理方法などの助言を行いました。

### 4. 職員の安全衛生管理

職場環境での職員の危険および健康障害を防止、衛生管理が適正にできているか、産業医による月1回（毎月第3週木曜日）の職場巡視、安全衛生管理者の2週1回の職場巡視を継続して実施しました。職員自身の衛生管理や環境の美化意識も定着してきました。

### 5. 職員の健康診断状況について(95,6%実施)

- \*血圧が高めの方は、20%
- \*痩せ域の方は、6%
- \*メタボリックシンドローム予備軍の方は、18%
- \*貧血気味の方は、11%
- \*HbA1Cが6.0%以上の方は、11%
- \*職員のインフルエンザ予防接種実施者：45名 インフルエンザ罹患患者：2名

【平成 27 年度 食事写真】

○こどもの日 (5月)



○ハンバーガー (6月)



○文月祭 (7月)



○冷やし海老塩ラーメン (8月)



○鶏肉照り焼き丼 (9月)



○スープカレー (10月)



○台湾まぜそば (11月)



○鰹タタキ丼 (11月)



○クリスマス会 (12月)



○正月



○節分 (2月)





○手打ちそば (2月)



○豚丼 (3月)



【放課後ディサービス (キュール) 手作りおやつ】

○カップケーキ



○プリン・ア・ラ・モード



○ロールケーキ



○ピーチタルト



○蒸しガトーショコラ



○大学芋



○ジャム入りスコーン



○バナナケーキ



○ココアチュロス



6. 職員の委員会活動

表②

委員会名	職員数	活動内容
感染委員会	7名	ペーパータオル、ハンドソープ等の在庫管理、発注
システム委員会	6名	システムの不具合状況を日々確認
災害対策委員会	7名	災害マニュアル作成、県に提出
図書委員会	4名	本の貸し出し確認、新刊の検討、購入
スポーツ委員会	6名	利用者対象もしくは職員のスポーツ大会の連絡調整
行事・地域ふれあい・食の委員会	9名	季節行事や地域住民との交流行事企画、運営、地域行事参加、情報提供
メディア・広報委員会	5名	法人広報誌「ふくらむ」の発行、HP作成準備
		利用者に写真の提供(注文表等)
高次脳機能障害支援委員会	3名	支援拠点業務をフォロー、高次脳機能障害支援について施設内職員のリーダーシップをとっていく知識を備える

※兼務あり

7. 職員会議

表③

会議名		開催日	開催時間
職員会		毎朝	8:30-8:45
		毎夕	16:50-17:00
		第2火曜日	16:10-17:00
幹部会		毎月第1・3火曜日	15:00-17:00
利用一次判定会・支援会		随時	
各科会議	自立訓練	不定期	15:00-16:00
	就労移行	毎週木曜日	16:15-17:00
	就労B型	毎週金曜日	16:15-17:00
	施設入所	毎月1回(月末)	17:00-18:00
	世話人	毎月1回	9:00-10:00
	ソーシャルワーカー	週1回	9:00-10:00
プログラム検討会		毎月1回	16:00-17:00
スポーツセンターとの会		毎月1回	15:00-16:00
自治会との会		必要に応じて開催	16:00-16:50

※B型自治会は、12月で解散

8. 実習生

表④

	学校名・性別	期間	実習名
1	春野高等学校・女子	平成 27 年 8 月 10～12 日	インターンシップ
2	春野高等学校・女子		
3	高知県立大学・女性	平成 27 年 8 月 24～28 日	介護等体験実習 (教諭普通免許取得)
4	高知工科大学・男性	平成 27 年 10 月 19～23 日	
5	土佐リハビリテーションカレッジ・女性	平成 28 年 1 月 7 日～3 月 2 日	作業療法士資格取得
6	日本メディカル福祉専門学校・男性	平成 28 年 2 月 1 日～3 月 4 日	社会福祉士資格取得

9. 事故・破損等

I. 事故件数

13 件（施設内・周辺事故 5 件、車両関係事故 8 件）※保険対応 5 件含む

II. 施設・設備・備品等の破損件数

89 件（施設内・周辺破損 86 件、車両関係破損 3 件）

III. 送迎関係の変遷（1 日平均・平日）

表⑤

	H26 年度 4 月 1 日	H26 年度 3 月 26 日	H27 年度 3 月 31 日
一般送迎利用者	47 名	53 名	53 名
使用車両	5 台	6 台	6 台
1 日の運行回数	16 回	19 回	20 回

10. 助成金・福利厚生等

I. 助成事業について

高知県共同募金会「平成 27 年度 NHK 歳末たすけあい助成事業」

「クリスマス会」「もちつき大会」の経費として利用者一人当たり 1,000 円の助成を受ける。

総事業費 206,290 円（内 123,000 円助成）

II. 生活習慣病予防健診及びがん検診受診（協会けんぽ）

近森健診以外に日赤にて生活習慣病予防健診（35 歳以上）及びがん検診（20～38 歳の偶数年齢の女性）を希望者が受診。受診件数は以下のとおり。

- ・生活習慣病予防健診 … 9 件
- ・がん検診（単独） … 2 件
- ・生活習慣病予防健診+がん検診 … 4 件

III. 福利厚生センター（ソウエルクラブ）利用実績（表⑥）

表⑥

月	事業	内容			金額
4月		対象者50名			
	センター事業 その他	情報誌『SowelClub』春号 配布	50名	現物支給	○
	センター事業 お祝品贈呈	入学お祝い品	1名	商品券	5,000
	センター事業 永年勤続記念品贈呈	永年勤続記念品	5名	現物支給 5,000円程度×5	25,000
5月	センター事業 資格取得記念品贈呈	資格取得記念品	4名	商品券 5,000円×4	20,000
6月	高知県事務局 会員交流事業	家庭常備薬等の斡旋		希望小売価格からの差額	11,802
	センター事業 健康生活用品給付	健康生活用品	50名	現物支給 3,000円程度×50	150,000
7月	センター事業 その他	情報誌『SowelClub』夏号 配布	50名	現物支給	○
	センター事業 お祝品贈呈	出産お祝い品	1名	商品券	10,000
		対象者増減なし	50名	退会2名、入会2名	
8月	センター事業 お祝品贈呈	出産お祝い品	1名	商品券	10,000
9月	センター事業 お祝品贈呈	結婚お祝い品	1名	商品券	10,000
10月	センター事業 その他	情報誌『SowelClub』秋号 配布	50名	現物支給	○
	センター事業 その他	オリジナル手帳申請	50名	現物支給	○
	高知県事務局 会員交流事業	家庭常備薬等の斡旋		希望小売価格からの差額	7,359
12月	センター事業 お祝品贈呈	出産お祝い品	2名	商品券 10,000円×2	20,000
1月	高知県事務局 会員交流事業	映画チケット斡旋	27枚	通常料金からの差額	27,000
	センター事業 その他	情報誌『SowelClub』冬号 配布	50名	現物支給	○
3月	センター事業 生活習慣病予防健診費用助成	生活習慣病予防健診助成金	41名		146,360
通年	センター事業 その他	ウイズカウネット10%割引			○

合計 442,521 + ○

掛金 500,000

集計	センター事業 健康生活用品給付	150,000	
	センター事業 お祝品贈呈	55,000	差額 -57,479 + ○
	センター事業 資格取得記念品贈呈	20,000	
	センター事業 永年勤続記念品贈呈	25,000	
	センター事業 生活習慣病予防健診費用助成	146,360	
	センター事業 その他	0	+ ○
	高知県事務局 会員交流事業	46,161	
合計		442,521	+ ○

10. 外部団体見学研修

表⑦

月日	団体名	人数
4月18日	石川 Dr.(真誠会理事長) 読書会	10名
6月9日	若草特別支援学校保護者	18名
7月3日	若草特別支援学校子鹿園分校保護者	3名
8月4日	高知市立特別支援学校小学・中学部教職員	3名
8月5日	高知市特別支援教育研究会	30名
8月19日	高知聾学校	9名
9月14日	高知リハビリテーション学院作業療法科	7名
10月21日	四万十町大正地区民生委員会	13名
11月18日	高知赤十字病院	3名
11月24日	高知市立特別支援学校 PTA	42名
11月27日	平成福祉専門学校	3名
11月30日	てくとこ瀬戸	7名
12月4日	高知リハビリテーション学院(言語聴覚科)	3名
12月10日	高知東高等学校看護科	32名
2月23日	視覚障害者の生活と権利を守る会	8名
2月24日	四万十町十和地区民生委員会	20名
3月30日	近森病院付属看護学校	2名

11. 職員研修(内部)

表⑧

開催日時	内容・講師	人数
平成27年5月27日	高知県障害福祉計画と現状 (県障害保健福祉課 市川氏)	30
7月4日	高次脳機能障害支援拠点職員研修① (帝京平成大学大学院 中島恵子氏)	35
8月5日	障害者虐待 (高知県立大学 田中きよむ氏)	31
8月29日	小児～成人の発達 (高知大学医学部付属病院小児科 満田直美氏)	41
平成28年1月30日	事例検討会 (高知大学教育学部 是永かな子氏)	29
〃	出張報告～ワークショップ (高知県社会福祉協議会 半田雅典氏)	29
3月12日	高次脳機能障害支援拠点職員研修② (帝京平成大学大学院 中島氏・中村氏)	32
3月25日	障害者就労支援とは (県障害者就労支援チーム 小松仁視氏)	23

## 12. 職員研修(外部)および出張

表⑨

月日	施設外研修	開催地	参加人数
平成27年4月3日	高知県福祉・介護職員合同入社式	高知市	1名
5月19日	第2回グットセミナー ～子どもの行動に注意する 褒めるポイント～	高知市	3名
5月19・20日	コミュニケーション研修会(基本研修)	高知市	1名
6月2日	平成27年度 高知県工賃工場研修	高知市	1名
6月9・10日	平成27年度高知県強度行動障害支援者養成研修(基本研修)	高知市	1名
6月10日・11日	福祉現場の新任職員研修会	高知市	3名
6月18日	第2回 拡大連絡会 障害者における刑事弁護の在り方について	高知市	1名
7月9日	平成27年度高知県工賃向上研修「生産力アップ講座」第2回	高知市	3名
7月13日	人事考課評価者研修	高知市	6名
7月14日	人事考課評価者研修	高知市	3名
7月15日	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅰ・Ⅱ 介護基本研修	高知市	2名
7月14日・15日	平成27年度高知県相談支援従事者「初任者」研修	高知市	4名
7月15日	ファシリテーター研修(ファシリテーター技術の向上)	高知市	1名
7月22日・23日	リーダー研修会(岡田先生)	高知市	2名
7月23日	「障害者とお金」に関する研修会	高知市	1名
7月29日・30日	平成27年度 福祉職場の中堅職員ファーストステップ研修	高知市	3名
8月6日	生産力アップ講座(第3回)	高知市	3名
8月20日	食品衛生責任者養成講習会	高知市	3名
8月20日	生産力アップ講座(第4回)	高知市	1名
8月20日	少年鑑別所の機能と地域援助	高知市	1名
8月26日	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅰ・Ⅱ 介護基本研修	高知市	2名
9月3日	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅰ・Ⅱ 介護基本研修	高知市	1名
9月3日	生産力アップ講座(第5回)	高知市	3名
9月9日10日	指導職員研修	高知市	2名
9月10日	第3回グットセミナー「無視と待つことの大切さ・自分自身のアクションプラン・促し方を身につけましょ」	高知市	2名
9月11日～13日	高知県相談支援従事者「初任者」研修	高知市	2名
9月17日18日	平成27年度中国・四国ブロック地区身体障害者更生施設長会議	高知市	5名
9月24日	福祉職場の中堅職員ステップアップ研修	高知市	1名
9月25日	平成27年度 就業支援基礎研修	高知市	1名
10月7・16日	〃	高知市	1名
10月7日	平成27年度 施設内感染対策研修会	高知市	2名
10月14日	平成27年度安全運転管理者講習	高知市	1名
10月22日	平成27年度 高知県工賃工場研修(第7回目)	高知市	1名
10月30日	第5回高知県地域定着支援センター講演会	高知市	1名

11月5日	生産力アップ講座(第8回)	高知市	1名
11月9日	ケア技術研修会ステップ1-1・1-2(人の尊厳を考えるベーシック研修 I・II)	高知市	1名
11月10日	ファンリテーター研修	南国市	1名
11月11日	平成27年度 高知県サービス管理責任者等研修	高知市	5名
11月17日	食品表示制度を学ぶ	高知市	1名
11月24日～30日	近森リハビリテーション病院 理学療法科における研修	高知市	1名
11月30日	平成27年度自殺対策人材育成研修	高知市	1名
12月8日・9日	平成27年度高知県障害者虐待防止・権利擁護研修会	高知市	1名
12月10日	平成27年度 高知県工賃向上研修	高知市	1名
12月10日・11日	平成27年度 高知県サービス管理責任者等研修	高知市	1名
12月14日・15日	平成27年度 高知県サービス管理責任者等研修	高知市	4名
平成28年1月23・24日	2015年度 社会福祉士実習指導者講習会	高知市	1名
1月30日	平成27年度高知県サービス管理責任者等スキルアップ研修	高知市	4名
1月31日	平成28年度高知県サービス管理責任者等スキルアップ研修	高知市	4名
1月31日	クリーニング師研修会	高知市	1名
2月5日	平成27年度高知県身体障害者(児)施設協会(作業部会)・就労センター協議会合同研修	高知市	3名
2月10日	高知大学教育学部附属特別支援学校 第23回教育研究会	高知市	1名
2月19日	平成27年度 給食関係者研修会	高知市	2名
3月3日	平成27年度新入職員フォローアップ研修	高知市	1名
3月10日	平成27年度高知県サービス管理責任者等スキルアップ研修	高知市	4名
延べ職員数			109名
月日	出張(研修)名	開催地	参加職員
平成27年4月24日	平成27年度中国・四国地区ブロック更生施設長会義	香川県	1名
5月10日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会	東京都	1名
6月24日	平成27年第一回支援コーディネーター全国会議	埼玉県	1名
7月27日	NPO法人 あさなみワークキャンプ	愛媛県	1名
8月8日	環瀬戸内ネットワーク会議	愛媛県	3名
9月10日～11日	第39回日本神経心理学会学術集会	札幌市	1名
10月2日	平成27年度 障がい福祉サービス経営セミナー	東京都	2名
10月7日	施設内感染対策研修会	高知市	1名
10月8日	事業所説明会	東京都	1名
10月17日	第3回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研修会	福岡県	1名
10月31日	障害福祉サービス(デイサービスセンター) 見学	山口県	5名
10月31日	第10回香川県外傷リハビリテーション講習会(自動車運転再開に向けて)	香川県	1名
11月12日13日	身体障害者リハビリテーション研修会2015	兵庫県	5名
11月20日	全国代表者会議・全国支援拠点機関支援コーディネーター	東京都	3名
11月21日	日本脳外傷友の会 設立15周年記念 全国大会in東京	東京都	3名

12月1日・2日	平成27年岡山県サービス管理責任者等研修(地域生活・身体)	岡山県	1名
12月10日・11日	第39回 日本高次脳機能障害学会術総会	東京都	3名
平成28年1月30日	ソーシャルストーリーズ入門ワークショップ	東京都	1名
1月30日	四国ブロック高次脳機能障害普及連絡協議会	香川県	2名
2月5日	株式会社一誠社「2016新春フェア」	香川県	2名
2月19日	第2回高次脳機能障害普及全国協議会・支援コーディネーター全国会議	東京都	1名
3月18日	平成27年度全国身体障害者更生施設長会	埼玉県	1名
延べ職員数			41名